学校法人 日本芸術学園
日本芸術専門学校

2022 年度 学校関係者評価
報告書

目次

Ⅰ．教育理念・目的・人材育成像……1～4

Ⅱ．学校運営……4～11

Ⅲ．教育活動……12～26

Ⅳ．学修成果……27～29

Ⅴ．生徒・学生支援……30～36

Ⅵ．教育環境……37～44

Ⅶ．生徒募集……44～45

Ⅷ．財務……45

Ⅸ．法令等の遵守……46

Ⅹ．社会貢献・地域貢献……46

Ⅺ．国際交流……47

Ⅰ．教育理念・目的・人材育成像

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
1-1 学校の教育理念・目標の設定	4（1 名）3（5 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.1　点

委員コメント

・「感動」「品格」「変革」の理念が、学生に周知徹底されるよう、機会ある毎に伝える必要がある。

・ゴールが「変革の教育」であれば、表記順として「変革・挑戦・達成」より「挑戦・達成・変革」とすると、自然な流れが生まれ、読み手にもイメージしやすく映るかと感じます。

・パフォーマーに必要な素敵な教育理念だと思います。

・三つの教育理念を掲げていただいている点は大いに評価できます。手前味噌ですが「達成」は「fulfillment」とも呼べるのではないでしょうか。さもすると「いや、現実はこうだから」「いや、食べて行かなければならないから」などというあきらめモードで、こうした精神性を学生に理解してもらうのは至難の業と存じます。それでも繰り返し学校側が示していくのが大切なのだと心得ます。御校の学生諸君はとても優しい子ばかりです。まだまだ理念浸透の伸びしろがあると思い、評価を③としました。

・３つの理念。２つのミッションは素晴らしいと思います。後は、評価項目を決めて達成状況を測定していただきたい。

評価項目	適切・・・4　　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　　不適切・・・1
1-2 時代、社会、学習者のニーズへの適合 **重点項目①** **※第１回　当日討議項目①**	4（0 名）3（6 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3　点

委員コメント

・表現者の段階に限度はない。少なくともこの学校で学ぶ 2 年間で、現場にでても恥ずかしくない段階には達していると思う。

・この学校から、現場でのスタート地点に立つまでの準備はできて、卒業となっていると思う。
たとえば英語の単語だけでも理解できる状況があれば、強みの 1 つになると思う。

・実際に現場に出ても問題ない人材が何割程いるのか分からない為、何とも言い難いですが、各レベルに合わせたスキルの向上や、学園内外の環境に対応しているのは良いと思います。

・まだこの学校に伸びしろがあると思うのでこの評価。3 年制のコースが今後うまくあてはまったら、評価は 4 になると思う。アンケート結果や取組などが学生の目線で考えられており、教育理念があるのも素晴らしいと思う。

・映像俳優であれば事務所主導レッスン、舞台俳優であれば研究生など、俳優業はプロダクション主導で育成されることが大半なので、学校だけで完結しようとせずに各プロダクションや劇団などとの緊密な関係性を築きアピールすることが重要に思います。プレシャスオーディションにしてもそのまま生徒を見てもらうのではなく、事前に各プロダクションからどのような人材を求めているかのリサーチを行うことで、各講師・生徒にも情報共有しながら普段の講義内容をよりリアルなものに出来るようにも思います。

・情報量が少なく評価困難

評価項目	適切・・・4　　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　　不適切・・・1
1-3 定期的な点検、見直しの実施（時期・方法・組織）	4（0 名） 3（5 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　2.8　点

委員コメント

・目標の見直しは、必要に応じてお願いします。理念については、恒常的に掲げられる必要がある。

・定期的な点検と見直しはより良い環境を作るためには必須かと思うが、「教育理念・目標」は学校自体の基礎である地盤にあたる部分なので、あまり“改善”を定期的に行ってしまうと地盤が緩くなってしまうので、見直しする“トピック”選びに注意が必要かと感じます。

・現状に満足せず常に学校として見直しをするとはとても良いと思います。

・私も幣スクールで出来ているかどうかはわかりませんが、理念や目標の記載、説明だけでは理念を浸透させるのは難しいと思います。もちろん、すでに実践されているとは重々承知していますが、学校関係者各位が理念に即して日々活動していらっしゃることが何よりも重要と思います。また責任あるお立場の方が絶えず理念にまつわる訓示あるいはエピソードを披露されるのも一つの有効な手段と心得ます。点検・評価に記載された項目のみに対する評価で申し訳ありませんが②とさせていただきました。既にそうしたことは日常行われており、誤解がありましたらお詫び申し上げます。

・自己点検評価書に情報が 2 行しかないようで評価不能と言わざるを得ない。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
1-4 教育理念・目標の教職員・生徒・学生等への浸透方法、浸透度	4（0名）3（4名）2（2名）1（0名） 平均　2.6　点

委員コメント

・浸透には時間もかかると思いますが、事ある毎に掲示や口頭でお願いしたい。

・個人的な印象となりますが、2023年度では(そもそも知らなかったのか、忘れてしまったのか定かではありませんが)学生への浸透度は著しく低かったです。「教育理念・目標」の記載されているホームページやパンフレットは、受け手が見に来てくれるのを待っている、いわば受動的になっているのが一つの原因かと思います。校舎のエントランス・各教室・廊下など、学生が毎日目を向ける場所に記載(貼り出し？)することで、「教育理念・目標」に能動的な動きが生まれるかと感じます。

・HPや入学式など、保護者も確認が出きるので良いと思います。

・私も弊スクールで出来ているかどうかはわかりませんが、理念や目標の記載、説明だけでは理念を浸透させるのは難しいと思います。もちろん、すでに実践されているとは重々承知していますが、学校関係者各位が理念に即して日々活動していらっしゃることが何よりも重要と思います。また責任あるお立場の方が絶えず理念にまつわる訓示あるいはエピソードを披露されるのも一つの有効な手段と心得ます。点検・評価に記載された項目のみに対する評価で申し訳ありませんが②とさせていただきました。既にそうしたことは日常行われており、誤解がありましたらお詫び申し上げます。

・自己点検評価書に情報が2行しかないようで評価不能と言わざるを得ない。

Ⅱ．学校運営

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-1 役員の選定の基準の適正さ	4（1名）3（4名）2（1名）1（0名） 平均　3　点

委員コメント

・引き続きお願いします。選定における公平さ、適正さ、必要と思います。

・映像・舞台の分野に囚われずに、多種多様な業種からの意見を聞くことのできる環境が成り立つので、とても素晴らしい選定基準かと思います。

・特に問題なく良いと思います。1つ上げるならば、委員長の候補が事前に決まっているのなら、欠席予定の人にも手紙かメールなどで承認をとっても良いのかな？と思いました。

・点検・評価に記載されている内容でほぼ適切かと思われますので③としました。

・言っている意味がわからない。役員の選任は寄附行為やそれを補う寄附行為施行細則で明確に定めておくことが望ましい。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-2 理事会、評議員会の開催状況	4（5名）3（1名）2（0名）1（0名） 平均　3.8　点

委員コメント
・適切であると思います。
・年間で4回は適切かと感じる。
・良いと思います。
・四半期に一回の理事会は適切過ぎると存じ、評価を④とさせていただきました。
・適切かつ必要十分な頻度でおこなわれていると思います。
・理事会、評議員会は適切に開催していると判断されます。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-3 寄附行為の定期的な点検と見直し	4（2名）3（4名）2（0名）1（0名） 平均　3.3　点

委員コメント
・本学の信頼を高める為にも、点検をお願いします。
・学校法人として重要な寄附行為を「定期的」に見直すのは、教職員を含めて関係者が常に念頭に置かれている重要事項としての意識を保てるので、とても良いと思います。
・定期的見直しの頻度も今後気になりました。
・見直しをされて改善への糸口をつかまれようとしているという意味で③のほぼ適切とさせていただきました。
・令和7年4月施行の改正私学法への対応を進めているとのこと。理事、評議員の選任方法は寄附行為で定めることになるので迅速な対応を期待しています。また、理事・評議員の兼職禁止も令和7年6月の定時評議員会開催以後に始まるので、慎重な対応をお願いいたします。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-4 事務組織の明確化	4（3 名） 3（3 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.5　点

委員コメント
・わかりやすく、合理的な組織作りをお願いします。
・組織となると誰が何をどこまで担当しているのかを、1 度明確化しても飽和状態になってしまうことがあるので、校務分掌を連動させることで共通認識を保てる環境作りになっていると思います。
・事務組織を兼ねる事で、表から見えづらい学校の動きが分かって良いと思います。
・組織の明確化と更新についてかなり気を遣っておられるようなので、評価を④としました
・明確ではあるが、構成人数が少ない印象がある。
・組織図や校務分掌の内容が分かりませんので、コメントできません。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-5 学校運営会議、教育会議などの定期開催	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点

委員コメント
・全員による職員会議と、テーマ毎の分科会、実務者会議など工夫して情報共有していると思います。引き続き願います。
・議論の時間を有効活用する目的で、事前に議題を共有しておくのは名案だと思います。もちろん議題によって大きく変化しますが、情報共有をし過ぎることで協調性に意識が行きすぎて現場担当者個人の実行力が半減してしまうこともあるので、あくまで“連絡会”としての側面があるのは、今後も生かし続けるべきポイントかと感じます。
・情報共有や、議論を積極的に行ったり、事前に議題を共有しておくことで時間を有効に使っているのはとても良いと思います。
・事前に議題を共有するなど、理解度の深まる取り組みをされているところは評価されます。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-6 各会議の内容と適正さ	4（3名）3（3名）2（0名）1（0名） 平均　3.5　点
委員コメント ・正確で適正な会議の運営の為にも、議事録をお願いします。 ・適切かつ有効なツールだと思います。 ・録音、又は録画なども併せて保管されていると良いと思います。 ・会議の記録を保存されていることで、相互理解の深まりが期待される点は評価できます。	

2-7 諸規程の制定　は省略させていただきます。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-8 諸規程の整備及び職業安定所への届出	4（4名）3（2名）2（0名）1（0名） 平均　3.6　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・適切かと思います。 ・良いと思います。 ・適切な対応をなさっているものと評価します。 ・労働法以外の諸規程の整備はなされているか教えてください。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-9 諸規程の定期的な見直し	4（1名）3（5名）2（0名）1（0名） 平均　3.1　点

委員コメント
・必要な見直しを繰り返し、最良の規程にして行けると良いと考えます。
・目的が「効率化」と明確にあるので、意義のある業務だと思います。
・新しいメンバー含め、色んな人の意見を取り入れた見直しが出来れば良いと思います。
・点検・評価に記載された「随時」という部分が気になりました。規定はあまり頻繁に変えすぎると規定として機能しなくなる恐れもありますので、③としました。誤解がありましたら申し訳ございません。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-10 学則等の定期的な見直し	4（3名）3（3名）2（0名）1（0名） 平均　3.5　点

委員コメント
・現状にあった事業項目の新設や拡充をご検討下さい。
・適切かと思う。
・各学科を選択する上での授業構成の見直しも併せてできたら良いと思います。
・2‐9と同様、学校規則も定期的な見直しが必要とは言え、あまり頻繁に変えると規則としての機能を失う恐れもあるため、取り急ぎ③としました。
・頻繁におこなっている印象だが、その分これというものが定まっていないのかという見え方もする。
・学則など在学契約の内容になりますので、定期的な見直しを継続してください。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-11 学生及び文書、備品等を守るための防犯対策の整備	4（1 名） 3（4 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3　点
委員コメント ・防犯対策、備品管理など引き続きお願いします。 ・適切かと思う。 ・手間にはなりますが、玄関を通る外部の方には必ず来客カード的なものを書いてもらう等するのもアリかなと思います。 ・これは難しい問題です。「ここまでいい」というのは無い項目ですし、かといって神経質になりすぎると学園の明るさが失われてしまいます。これから適宜強化されていくということですので、今のところは③で。 ・具体的な防犯対策を記述してください。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-12 各教職員の防犯に対する認識の徹底	4（5 名） 3（1 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.8　点
委員コメント ・安全な学園の為にも、防犯対策は殊に必要であると考えます。 ・適切かと思う。可能であれば、講師陣にもいざという際に教職員の方々と連携が取れるように、初期対応に対する共通認識をもてる場があると良いかと思います。 ・とても良いと思います。生徒にも不審な人やいつもと違った事を感じた時の報告など、都度共有できると良いと思います。 ・過去のトラブルを教訓に、しっかり対応されているとのことで④が妥当と考えます。 ・さすまた研修などをおこなっているのは評価できる。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-13 学校安全保健計画、消防計画の作成	4（5 名）3（1 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.8　点

委員コメント
・外部機関の力を借りながらの安全対策を計画して下さい。
・演劇業界は、スピーカー・照明器具の落下などの自然発火など、命に関わるリスクの高い業界ですので、常に職員室に連絡が取れる環境づくりがなされているのは、素晴らしいと感じます。
・良いと思います。
・かなり緻密な対応をなさっていると感じましたので④としました。
・法令に基づき適切におこなわれていると感じる。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-14 個人情報保護法の遵守	4（3 名）3（3 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.5　点

委員コメント
・個人情報保護法の遵守
・適切かと思います。
・良いと思います。学校外で仕事が必要なこともあるかもしれませんが、データの持ち出しや使用などにも制限をかけたらより良いと思います。
・これも難しい問題です。あまり厳しくすると職員の方の人権にも関わる問題ですね。そんな中、できる限りのケアをなさっていると思いますので④です。
・法令遵守は問題ないと思いますが、データ管理の観点ではローカルネットワーク＋アイソレーション、HDD 等へのデータ保管を将来的に構築するのがよいと思われます。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-15 セクシャルハラスメントの防止、対応マニュアルの作成	4（1 名）3（5 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.1　点

委員コメント
・ハラスメントの基準、分野も変化しているように思います。都度文書、口頭で告知願います。
・講師契約の際に伺ったハラスメント対策の内容を受けて、特にハラスメントが起きやすい業界への職業訓練校としては、十分な規定かと思います。
・身体を使った表現をする世界で難しい問題ではありますが、生徒側との面談やコミュニケーションも大事かなと思います。
・面談等で御校の理念を繰り返し示すことが大切かと存じます。なぜなら「感動」と「品格」はハラスメントとは相反しますゆえ。これからの充実化を期待して③としました。
・セクハラのみならず、パワハラ、モラハラ等の職場環境に関するハラスメント防止策も講じるのが良いと思います。
・【質問】2022 年度は事務局へセクハラの相談はありましたか。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
2-16 相談窓口の設置と適切な対応	4（4 名）3（2 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.6　点

委員コメント
・引き続き、相談しやすい環境づくりをお願いします。
・窓口がある環境であるのは適切だと思う。これはすべての職場において言えることですが、実際に窓口があっても利用に抵抗を感じるのも事実なので、（また職場によって対応もさまざまなので）教職員の精神衛生を保つために、プラスアルファとなる特異なものがあると、より良い職場環境が築けるかと思います。しかし、これは、幾つもステップを踏んだ先の話なので、評価は 4 とさせていただきます。
・良いと思います。
・職員の方が話しやすい場があるのはとてもいいことだと思います。
・第三者相談窓口について具体的に教えてください。

Ⅲ．教育活動

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-1 教育理念、目標の反映	4（1 名） 3（5 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.1　点

委員コメント

・引き続きお願いします。

・概念の捉え方は講師によってそれぞれとなるので、評価は難しい。特に「品格」は、講師陣の育った環境にも大きく左右されるので、「教育理念で意味する“品格”」をある程度、講師陣に提示する必要があると思います。

・品格の教育の為のカリキュラムがどのように編成されているか気になりました。

・カリキュラムのみならず、教職員各位が理念を理解し、それを各授業にできるだけ反映させることが求められると思います。期待を込め③としました。

・演技・演劇の世界も 3DCG/VR/メタバース/プロジェクションマッピング等の新たなテクノロジーによって演じる側に求められるものも変容しつつありますので、時代の先見性を鑑みた教育目標に期待したいです。

・カリキュラム以外にも教育理念が織り込まれた教育活動を教えてください。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-2 カリキュラムの構成 (教養科目と専門科目、座学と実習など) **※第２回　当日討議項目①**	4 (0 名) 3 (4 名) 2 (2 名) 1 (0 名) 平均　2.6　点

委員コメント

・この学校の公演の充実度は大きいと思う、座学という分野がもっと充実していると良い。20 歳前後の子がたとえば演技論を休憩時間や学校の外で熱く語れる場というのが少ないが、それがあると自分の中にその経験が血肉として蓄積されていくと思う。理論の骨組みを学習する座学がもっとあれば良いと思う。

・評価の気持ちは 2 から 3 の間。他の学生に座学どう？と聞くと、なにを言っているか分からないという意見が多いため、一方通行になっていると感じる。聞いている人が興味ないので、私の授業の場合はワークショップにして知的好奇心をくすぐる。たとえばノアの箱舟、エデンの園をあえて落語にして話してみる、など、なにかしら興味を持たせ一方通行にならないように工夫している。学生にというよりは、教える側が座学に対する意識を変えるのが良いと思う。

・座学は義務教育ではないので、もっと自由に生徒同士のディスカッションができる場所、どういう芝居の理念をもっているか、意見をぶつけあえる場所となると、自分にない考えを共有できる場となると思う。それにプラス講師を交えてのディスカッションできる場があれば、堅苦しいイメージもなくなるのではないだろうか。整体・ヨガについては、在校当時は卒業公演の稽古と授業が被っていた。時間割りの調整をしてもらえればいいと思う。

・内面は分からない。フラワーデザインスクールは実技で、私は座学を担当しているが座学は人気がない。御校でも座学に力を入れていただきたいと思うので、期待を込めてこの評価。まだ伸びしろがあると思う。難しいと思うが、自己点検評価に書いてあることは素晴らしい。座学はおもしろい講師に来ていただくのが良い。私も講師を選ぶときに Youtube をみたり、公演など聞きに行ったりする。100 人が 100 人おもろしい人はいない。研究者としては優れているが、公演者としてはどうか、という人もいるので、話がおもしろい方が公演を行うとバランスが良くなるのではないか。座学を教えていただいている方同士の意見交換も大事だと思う。

・インターネットがこれだけあって、海外のミュージカルもネットで見られる。知り合いの海外の俳優に勉強している内容を聞くと、座学がとても多い。座学の内容をもっと工夫できれば良いと思う。

・自己点検評価のたった 2 行から評価するのは難しい。ただ普段教職員と接していて、教育関係については誠実だと感じるので、この評価。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-3 カリキュラムに対する学生・卒業生の評価	4（3 名） 3（3 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.5　点

委員コメント

・表現の分野で少人数で学べることは、学生にとっては恵まれている環境である。

・授業・カリキュラムに関して学生からは通常、低評価があがりやすい傾向の中で、高評価を得られているのは、それだけ学生のニーズに答えている証明だと受け取っています。

・少人数での授業はやる気あるメンバーにとって、とても良いと思います。ただ、将来の為にその授業を受けたいのに、抽選で落ちてしまい受講できない等、この学校を選んだ意味が無くならないような対策も必要かと思います。

・学園としては大変なことだとは存じますが、少人数制の授業で手厚く指導されるのは好ましいことだと思います。

・良くも悪くも昔ながらの演劇生といった感じ。アジアを含む海外レベルの生徒を輩出してゆくことを近未来目標にしてほしいし、そういう意味ではアンテナが低い気もする。

・自己点検評価書の中の「高評価を受けた。」の具体的な内容を教えてください。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-4 カリキュラムの定期的な点検及び見直し **※重点項目②** **※第 1 回　当日討議項目②**	4（1 名） 3（5 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.1　点

委員コメント

・多彩なカリキュラムがあるが、学生の要望や世の中の流れに応じて、変わってきたと感じた。変遷させていく姿勢は良いと思う。一方で、学生に礼儀がある、ちゃんとできているということを業界にもっと浸透させていくためにも、表現者の表現以外の部分、人格で評価されることができる講座をもっと増やすことも良いと思う。

・芸能の世界にあこがれて入ってくる学生が多いので、この業界にふれあうというところから始めるという意味では、今のカリキュラムで良いのではと思う。さらに、考え方の切替やけじめをつけられる、表現者の表の部分だけでなく裏の部分も見せられるようなカリキュラムを、どこかにうまくすり込んでいけるのも良いのでは。校外学習で学ぶのも良いと思う。

・カリキュラムアンケートにもあったように、授業の種類に偏りがあることもあるので、その辺りも含めて見直しされたら良いと思います。

・教育課程編成委員会がこれから始まって、それが機能したら評価は 4 になると思う。

・情報量が少なくてコメントできない。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-5 実習システムの現況と今後の見直し	4（2 名）3（4 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.3　点

委員コメント

・現場実習は大切な学びになると思う。その場が、多方面に広がると、卒業後の選択も間違いがなくなってくる筈。

・現場を実際に体感することは、職業訓練校として必要不可欠なことで、それが実施できる環境が整っていることは、素晴らしいと思います。（ミュージカルコースとして）評価の数字とは別に懸念事項があるのが、現場で“誰”を見るかによって、学生にとって実習システムが逆効果に働く可能性が高くなるので、インターンの連携に今後さらなる注意が必要となるかと思います。というのも、実際に超大手カンパニーでも、アンサンブルの人たちは、歌はプレスコで賄うためにほとんどがダンススキルで判断されることが多く、彼らのモチベーションも作品に対してリサーチをしない、本番ではマイクがついていても歌わないなど、「学校で教えてもらったことの大半を手薄にしてでもプロの現場に立てる」という現実を目の当たりにしてしまうためです。その光景を学生が肌で感じてしまうと、授業に対するモチベーションも下がる可能性が非常に高くなるので、インターンに対しては今後最新の注意が必要かと思います。

・プロの現場に触れていくのはとても良いと思います。

・問題点を意識され、取り組まれておられますので、③の評価にさせていただきました。

・「インターンシップ等の実習システムの連携にまだ乏しい」とのことなので、今後の具体的な改善策や改善予定を教えてください。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-6 シラバスの作成・学生への提示状況	4（3 名）3（2 名）2（1 名）1（0 名） 平均　3.3　点

委員コメント

・継続して願います。

・2023 年度、選択科目に関しては学生はシラバスを見ますが、必修や授業名でなんとなく内容がわかるものに関しては、シラバスを事前に見てくる学生は、残念ながら「0」でした。なので、シラバスを見ていないことで、何を授業中に重要視すべきなのかもわからずに、学生は時間を過ごしていたので、シラバス提示方法に工夫が必要かと感じます。

・常に自身で確認できるのはとても良いと思います。

・学生諸君はスマホの達人ですから、皆が常時確認できる工夫は効果的かと存じます。

・シラバスは保護者が見られるか教えてください。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-7 教育方法の工夫・研究の取り組み	4 (2 名) 3 (4 名) 2 (0 名) 1 (0 名) 平均　3.3　点

委員コメント

・更なる充実をお願いします。

・“与えられたもの”を実践する意外に「アウトプットも自己表現も苦手」という学生が多い中、自分たちで能動的に表現する機会が増えた 2023 年度を見て、評価を 3（- 1 にさらなる機会への期待値）とさせていただきます。

・他校との交換授業は刺激になって良いと思います。

・意識されて様々な工夫を凝らされている点は高く評価できます。

・不適切とは思いませんが、これだけ AI 等で社会が変わり始めている中、先見性・先進性という意味でそれらを積極的に取り入れたものにしようとは感じられないので、そこが旧態然とした学校イメージにならないか心配です。Chatgpt で脚本を何パターンも作ってチョイスする制作環境が当たり前になりつつあります。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-8 生徒・学生の授業評価とその反映	4 (2 名) 3 (2 名) 2 (2 名) 1 (0 名) 平均　3　点

委員コメント

・良いと思います。(出席率 80%以上で成績評価の対象となる位の出席が欲しいですが)

・簡単に単位を修得させることはできない＋芸術においての評価点をつける難しさ＋できるだけ卒業してもらわなければ…という複雑なトピックが絡み合うのが、「評価基準」だと思います。学生から「ひとまず出席しておけば単位がもらえる授業はある」という発言を聞いたことがあり、学校へ来る目的が「単位取得」になってしまい、「学びと経験」ではなくなってしまっているので、現在の GPA の基準に何かひと工夫必要なのかもしれません。

・出席、試験にプラスで日常的授業態度も評価に入れた方が良いと思います。

・「評価点 40 点以上で単位取得」とありますが、いささかハードルが低すぎると個人的には感じます。もし、評価 2 を現行の点数のままで維持される場合は、該当する学生に対し履修あるいは補講など、なんらかの追加措置がとられるべきです。それに呼応し、評価 1 に該当する学生については学科の再履修という厳しい措置が取られるべきかとも思います。

・修学支援制度に影響すると思われるので、ＧＰＡを継続してください。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-9 卒業生・企業等の評価と活用	4（3 名） 3（3 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.5　点

委員コメント

・業界人の視線、要望など実社会の雰囲気に接する機会は有用である。

・職業訓練校として、外部からの意見を反映して即カリキュラムに加える姿勢と実行力に、評価 4 とさせていただきます。

・実際の業界のリアルな評価が分かるのは今後の自分の見直しも出来るから良いと思います。

・良い取り組みかと存じます。これから期待できるものとして評価を③としました。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-10 成績不良者への対応	4（2 名） 3（4 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.3　点

委員コメント

・学生個々で事情があると考えます。現行のように細かい対応をお願いします。

・「保護者との連携」が行われていることが何より大切だと感じます。様々な理由により成績不良となってしまうと思うので、「卒業できない！」よりも「卒業できるようにサポートする」体制が素晴らしいと感じます。

・欠席、休学者へのサポートも行われているのは良いと思います。

・とても難しい問題です。厳しい業界だと聞いていますので、本来ならば出席率の低さは将来働いていく上で致命的です。それにもかかわらず御学園はそういった学生に対しても寛大な措置を取られているあたりは素晴らしくもあり、また多くのリスクを背負われているとも正直感じます。ただ、そうした御学園のご努力が一人でも多くの学生の心の救済につながれば大いに意義があると思います。そうした期待を込めて③としました。

・細やかに対応されていると思います。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-11 学則・細則・内規に準拠した評価	4（5 名）3（1 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.8　点

委員コメント
・引き続きお願いします。
・芸術学校には、実技を学べると思う学生が多い中、「Guidance Book」で授業内容を前もって提示しているのは、保護者にとっても学校自体をイメージ＝安心につながるので、素晴らしい取り組みだと思います。
・良いと思います。
・内規などについて分かり易い認知方法を実践なさっていると思います。
・自己点検評価書を見る限りよく出来ています。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-12 各成績判定者の審査基準、意思の統一	4（3 名）3（3 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.5　点

委員コメント
・よろしいと考えます。
・意思の統一を講師陣と測る上で、評価方法などの統一だけでなく、シラバスを組む前に「教育理念」を含めた授業内容自体に統一感をもてる機会が設けられると、さらに良くなると思います。
・講師と教職員のコミュニケーションがきちんととれた上での評価であれば問題ないと思います。
・きわめてフェアな実践をされていると感じました。

・情報量が少なく、あまりコメントできない。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-13 評価の客観性・妥当性・信頼性・公平性	4（5 名）3（1 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.8　点

委員コメント

・担当講師だけの評価でなく、教職員の評価が加味されるのもよろしいと思います。

・教職員による評価点の最終確認が行われるのは、様々な価値観でつけられた成績を統一してくれる働きがあるので、非常に良い体制だと思います。

・良いと思います。

・公平や平等を保つのは何にしても至難の業ですが、極限までその精度を高めるべく努力なさっていることは素晴らしいと感じました。

・特にありません。適切かと思います。

・情報量が少なく、コメントできない。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-14 年度別合格率の推移、問題点の把握と対策	4（3 名）3（2 名）2（1 名）1（0 名） 平均　3.3　点

委員コメント

・この業界で仕事につかずとも、そのような資格を取得しておく事は、助けになると思います。

・現場で俳優陣たちから「カウンセラーが必要」「メンタルのトレーニングの仕方を知りたい」など耳にするので、それを前もって学校でヨガ＆整体の大切さを修得できる環境が用意されているのは、素晴らしいと思います。

・自身のケアの為に学びたくても、他に必要な授業が被っていたり、卒公稽古が始まった際、稽古と授業が被ってしまい参加できない…等無いのか気になりました。

・ヨガの実践は素晴らしいことだと思います。身心ともに健康を意識することは、エンターテイナーに欠かせない要素だと素人ながら感じます。またこの取り組みは御学園の理念である「感動」「品格」「変革」の教育を力強くサポートするものであると高く評価します。

・「演劇人や俳優になりたいニーズ」の検証と同時に、ドラマ制作者・劇団運営者を対象とした「欲しい俳優のニーズがどれだけあるのか」の検証も必要と思います。

・評価不能の項目です。ただし、合格率を就職率に置き換えてはどうでしょうか。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-15 不合格者への対応	4（3 名） 3（2 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3.3　点
委員コメント ・授業を受けている学生は、ほぼ資格合格して欲しい。 ・資格取得目的でない前提なら問題ないと思います。 ・これはいかしかたございません。 ・評価不能の項目です。ただし、合格率を就職率に置き換えてはどうでしょうか。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-16　専任教員と非常勤講師との数的・男女のバランス	4（2 名） 3（3 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3.1　点
委員コメント ・専任教員の数がもっと増えて欲しい。 ・適切だと思う。 ・良いと思います。 ・どのくらいの講師の数が妥当かの知識がありませんので、その辺りは評価しかねます。ただ、私個人としては男女の比率は関係なく、その教育機関に適した男女比率は自ずと適正な値に落ち着くのだと思います。たとえば、弊スクールの場合は男女の比率は圧倒的に女性が多いわけですが、それはそれで必然であると捉えています。とは申せ、御学園の男女平等を旨としたご配慮は評価に値します。 ・判断基準がわかりませんので。評価できません。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-17 教員の平均年齢とバランス	4（4 名） 3（1 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3.5　点
委員コメント ・よろしいと思います。 ・適切だと思う。 ・良いと思います。 ・皆さん、お若いのですね！素晴らしい。うらやましいです。未来を感じます。 ・バランスについての評価が記載されていません。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-18 1 人当たりの担当授業時間数の点検	4（2 名） 3（4 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.3　点
委員コメント ・現状で良いと思います。 ・講師 1 人あたりの授業数基準が設けられていることで平等性が保たれるため、良いと思います。ただ分野によって学生 1 人あたりの得られる知識・技術には差が生まれる点も、視野に入れて授業数を設定できると、講師と学生双方の利点となると感じます。 ・特にボーカル等、1 人 1 人に時間がかかってしまう授業は多めにし、同じ先生の場合 1 コマのみ選択可など制限をつけても良いと思います。 ・まったくもって妥当であると存じます。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-19 担当業務の内容と全体のバランス	4（1 名） 3（3 名） 2（2 名） 1（0 名） 平均　2.8　点
委員コメント ・専任教員 3 名での多様な業務はすこし加重かと思えます。 ・永遠にベストなバランスを得られることは無いと思うので、「今後も課題」としている点で、評価 4 とさせていただきました。 ・良いと思います。 ・詳しいことは存じませんので、偉そうなことは申せませんが、三名の専任教員ご担当者の担当範囲が深く広すぎるのがやや心配です。 ・一人あたりの仕事量が多く正確性・スピードを確保するあまりストレスフルな環境になっているのではという懸念はあります。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-20 定期的な人事考査の実施	4（2 名） 3（4 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.3　点
委員コメント ・引き続き、お願いします。 ・適切だと思う。 ・先入観等無いものが行えているならとても良いと思います。 ・大切な事だと思います。ただ、生意気なことを申せば、職員の自己評価とその人に対する管理者側の評価が一致することはほぼ希ですので、大変なことだとは思いますが、互いのすり合わせが必要かと存じます。 ・人事考課の結果とその反映が適正におこなわれたのかの検証が必要と思います。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-21 教員の教育能力開発への取組状況 **※第 2 回　当日討議項目②**	4（2 名）3（3 名）2（1 名）1（0 名） 平均　3.1　点

委員コメント

・学生が学んでいることをサジェスチョンする中で、職員も現場に慣れていると、学生へのアドバイスが的を得たものになると思うので、良い取組だと思う。

・私は学生にどう良い影響があるかを常に考えている。演じる側だけでなく、サポート側テクニカル側がいて成り立つという考えが欠落している学生が多い。学ぶというより、どのようにアウトプットするかというのが大事だと思う。職員がいないと成り立たないということを学生に思わせることができれば、良いと思う。サポートしてくれる側が、テクニカルのことができると、学生としてもはっと気づかされる、意識が変わっていくのではないか。

・音響、照明などは、職員室にいるどの先生に聞いても基本的なことは分かるというレベルになっているだろうか。教室の音響だけでなく、ホールの音響なども、どこまで教職員が同じレベルでできるか、たとえば研修に休んだ場合の共有など、どうなっているか気になったので、この評価。

・これだけでは評価が難しい。教員の能力開発については、忙しさに追われていて、お金もかけて、というのは難しい。フラワーデザインスクールの中でも難しい。照明や音響だけでも、やっていることに意味があって、今後も取り組むと書いてあるので、この評価。教員の根底にあるのは、コミュニケーション能力だと思う。学校内でもスキル開発ができるのではないか。たとえばみんなでミュージカルを観て感想を言い合う。講師同士の意見交換など、極力お金と労力をかけずに校内でもスキル開発ができるのではないかと考える。

・教職員の本来のいる意味は、生徒の将来にどれくらい寄り添えるかということ。デビューや就職につなげなければいけない。生徒とのコミュニケーションのツールとしては、研修することはとても良いと思う。ミュージカルを観にいく、などは普段の努力。他校の情報などを聞いたり、人脈をつくったり、就職活動の情報収集などが大事。それを日々行っている上で、このような研修に出ているということで、この評価。

・自己点検評価だけでは、とにかく評価できないが、学校を応援する気もちがある。これだけの研修では足りず、教員の能力開発が大切であると考える。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-22 教員 1 人あたりの学生数の割合	4（1 名） 3（2 名） 2（3 名） 1（0 名） 平均　2.6　点
委員コメント ・細かい対応の為には、教員の増員が必要かと。 ・平均的な人数だと思う。 ・特に問題無いと思いますが、より深く細かく見るならもう一人教員を増やしてもありなのかなとは思います。 ・教員の方が一人で担当されている学生数が多すぎるのではないかと心配しております。 ・コメントの仕方がわからない。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-23 職員の人数並びに年齢構成、男女のバランス	4（1 名） 3（5 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.1　点
委員コメント ・よろしいと思います。 ・適切だと思う。 ・特に問題無いと思いますが、若い方を増やして今のうちに育成するのも良いかと思います。 ・これについては知識が無く、お答えする術を持ちませんが、五名の職員の皆様でよくまわしていらっしゃることだと敬服いたします。 ・コメントの仕方がわからない。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-24 担当業務の内容と全体のバランス	4（2名）3（4名）2（0名）1（0名） 平均　3.3　点
委員コメント ・大変な業務の種類と量だと思います。 ・毎年度変化のあるポイントなので、「定期的に検討」する体制は適切だと感じます。 ・良いと思います。 ・御学園の内部事情に明るくありませんので、何ともお答えできませんが、業務の範囲が広いのにもかかわらず、よくこなされていると感じます。 ・仕事量から考えると担当者数が少ないのではという印象。そのため質問内容については少し疑問の余地があります。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-25 定期的な人事考査の実施	4（4名）3（2名）2（0名）1（0名） 平均　3.6　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・時期や年齢によって適職は変化する上、定期的な面談は必須なので、評価4とさせていただきます。 ・良いと思います。 ・皆さん、お忙しいので、時間を設けることが難しいと存じますが、面談を実施されているのは素晴らしいことと存じます。 ・人事考課をした後、考課結果をどうしていますか。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
3-26 各職員の意思疎通（報告・連絡・相談）	4（4 名）3（2 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・全体での連絡会、必要だと考えます。 ・適切だと思う。 ・高等課程、専門課程どちらの教職員も連携が取れているのはとても良いと思います。 ・月に一回の連絡会はなかなかできないことだと敬服します。	

Ⅳ．学修成果

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
4-1 就職・資格取得・中退予防等の取組が適切か **※重点項目③** **※第１回　当日討議項目③**	4（1 名）3（5 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.1　点

委員コメント

・中退者が少なくなってきているのは、うれしいこと。退学というのは、学生もつらいし、学校側もつらい。プレシャスオーディションの機会はとても良いと思う。オーディション後、たとえば劇団員の構成員として入れる割合が増えていけば良いと思う。

・中退予防の取組としては 3 の評価。この業界ではどんなにメンタルが強くても、急激に大変な状況が生じることでメンタルがやられてしまう可能性が多くある。自分のことを話す、自分を知るというのも、中退予防のきっかけになるのかもしれない。心理学に関する資格、心理カウンセラーになれる資格取得の機会があればもっと良いと思う。

・外部向けオーディションや、中退予防取り組みなど、良いと思います。メンタル面でのケア等も大事ですが、受けたい授業を思うように受けられず辞めてしまう生徒への対策も気になります。

・まず努力していることが素晴らしいと思う。

この学校で学ぶと、いろいろなことができると思う。みんなを元気にできる力、スピーチプレゼンテーション力、まとめる力など、芸能だけではなくどんなことにも通じる力が備わると思うので、いろいろなことができるということを打ち出すと本当に良いと思う。また、とても緊張することが多いと思うので、たとえばヨガ以外にピラティスや呼吸法などを取り入れるのも良いと思う。自身のスクールが、この学校の真向かいにあるので、普段隣にいて、職員や学生の会話など聞こえてくるが、それを聞くと学生への愛情を感じる。この学校にはポテンシャルがあると思う。

・丁寧に対応されておられると思います。

・就職率や中退率（離籍率）の数字がないと評価しづらい。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
4-2 動向分析 **※第 2 回　当日討議項目③**	4（4 名）3（2 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.6　点

委員コメント

・プレシャスオーディションのかたちをとるのは、とても良いと思う。オーディションに来てくださる方々は、まず最初に出会う現場の人たちということで、次の劇団などにつながっていくのはとても良い。来てくれるプロダクションのしぼりこみは、学校が主体となって行うべき。現場に出て行って、プロの現場で恥をかきながら少しずつ仕事を覚えて、何年か後にプロになっていけばいいので、卒業後養成所という選択肢は要らないのではないか。

・養成所も呼ぶかについて、プレシャスオーディションは絶対に行い続けた方が良い。たとえば楽曲コンペは落ち続けるが、続けているとある時連続で受かる時がある。プレシャスオーディションは窓口を広げた方が良い。見る人が多い方が良いのではないか。授業の最後に、やっとミュージカルのおもしろさが分かったという学生がいた。そのような子はきっと養成所に行きたいと思う。中退率については、学生の時に、友達の 7 割が中退した。整備士などの学校と比べるとエンタメ分野の学校は話が変わってくる。それを鑑みると、中退率は低い方だと思う。その予防線としての相談窓口としているので、最善の対策もとられているのではないか。

・プレシャスオーディションについて、ザ・ビジネスのところは選別、養成所でも先が見えるところは良いのではないか。先が見えないところを無理に呼ぶと、学生が実際に面談をしても少し違うなと感じたり、時間がもったいないことにもつながる。

・できることを全て行っていると思う。学生が 1 人立ちするためには、学校だけでなく外部の力も必要。学校だけではオーディションはできないので、プロダクションの方との連携は大事だと思う。中退率は、10%以内におさえられているので、良いと思う。プレシャスオーディションをさらに充実させてほしい。

・就職率とあるが、他の言葉が良いのではないだろうか。プロダクションに所属することは難しいので、プロダクションの所属率 30%とすると本来すごい数字だが、それを就職率とすると他のビジネス専門学校の就職率などと比べると低く見えてしまうので、損をしていると思う。所属率をさらに上げるために、プレシャスオーディションも新しいかたちを企画するのも良いのではないか。

・学習成果の動向分析であるが、専門学校は職業教育、教養教育を掲げている。教育の 1 つの指標としてあるのが就職率。学生の出口を気にしているのは良いと思う。中退率も動向分析に入れているのは良い。退学者がでるということは、学校側になにか理由があるかもしれない。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
4-3　中途退学への対応	4（3名）3（3名）2（0名）1（0名） 平均　3.5　点

委員コメント
・引き続きお願いします。
・前述通り、サポートと対策を行う体制は非常に良いと感じます。
・それにより、中途退学がどの程度減ったかも気になりました。
・退学希望の学生に対し早急に対応されるのは、お互いのために良いことだと思います。また、退学の理由を把握し、未来に活かす取り組みを意識してなさっていることを評価します。
・細やかに対応されておられると思います。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
4-4 卒業生の活躍の状況	4（2名）3（3名）2（1名）1（0名） 平均　3.1　点

委員コメント
・劇団へ進む学生がもっといてもいいかなと思います。
・職業訓練校として、ここまでの結果を出せるのは、素晴らしいと思います。
・卒業生のいる事務所など繋がりを増やしていけたら良さそうだと思います。
・素晴らしいです。個人的には将来はフリーで活躍し、生活できる子が増えて欲しいと思います。また、所属タレントの個性を重んじ、愛情を持ってその子を育てていってくれる事務所がさらに増えることを祈り、強く望みます。
・正直あまり見えてこないし、活発な活躍をしている様子にも見えませんので、これが募集の際の課題の一つとは思います。
・就職率の記載がないと評価できません。

Ⅴ．生徒・学生支援

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-1 担任、担当者による進路・就職相談の実施 ※第２回　当日討議項目④	4（1 名）3（5 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.1　点

委員コメント

・なにも知らない学生に、少しずつアドバイスをして業界の事情を知らせていくことが大事。とにかく早い段階から進路、なにになりたいか目標を教員と学生の間で共有してほしい。カリキュラムを使って、なにをすべきか、学生自身が 4 年後 5 年後を見据えて、どういう技術を習得していくか考えてほしいが、今の学生は受け身が多い。2 年の最後に慌てないためにも、早い段階からなにになりたいか、目指す目標を学生にせっついてほしい。

・面談はあくまで学生のやりたいことを重視して聞いていくスタンス。プロダクションによって色がある。それを学生本人が分からないことがあるので、それは第三者目線で教えてあげるのも良いのではないか。学生のやりたいことにプラスして、教員や講師からの「こういう面があるから、ここがいいんじゃない？」と言えるのではないか。このようなプロダクションがあるよということを、学生が知ることができる機会があれば良いと思ったが、そのような機会があるということなら、評価は 4。

・面談のタイミング、時期や回数を増やすということを検討した方が良い。三者面談はとても良いと思う。横のつながりが多いと、ちがう視点でアプローチできるので、良いと思う。

・担当教員と、専門分野の分かる方（講師）の三者面談を行う機会があると、より三者の意思疎通があって良いのでは。時間や契約の面も関わってくるので、難しいと思うが、学生にとっても早い段階でなにかを気づくことができるかもしれない。

・担当の先生が 1 対 1 で面談をしているとあるが、たとえば、MIICA では進学の相談があった場合、担任のみならずその分野にくわしい先生がつくようにしている。講師の先生にアドバイスが必要な時は、適宜聞いたりしている。生徒本人の面談の他に、プロダクションの方と教員が面談する機会を設けていることもある。

・評価が難しいが、この自己点検評価の一文には重要なことが書かれている。この文から、他にも様々なことを行っているだろうということは、推測できるので、この評価。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-2 卒業後の進路調査の徹底 **※第２回　当日討議項目⑤**	4（1 名）3（5 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.1　点

委員コメント

・学生が卒業後別のプロダクションに所属した場合は、理由があると思うので、そのような情報が把握した方が良い。先日の卒業公演に来ていた卒業生もいた。そういった卒業生は生き生きとした情報を持っているので、卒業公演の案内など卒業生に知らせる手立てがあった方が良い。

・同窓会や講習会、在校生が卒業生に質問できる機があると良いと思う。私は卒業校からいまだにメールがくる。人材募集などのメールもある。それがあると、そのようなことを今やっているんだな、ということが分かる。

・卒業生をどう追っていくかは、難しい問題。後輩からの質問メールなどは良いと思う。卒業して５年経つと、業界から離れている人が多い。実際同期でもそう。追いかけられる範囲は５年が限度なのではないか。卒業してたとえば２年後に、進路先の状況はどうですか、と１度でも聞いてあげる機会があれば良いのでは。逆にしつこく追いすぎるのは、別の問題になると思う。

・同窓会は、やった方が良いと思う。同窓会で在校生にパフォーマンスをしてもらうなど、軽めにイベントを作って会費制にしても良いと思う。それを続けて、先生と話す機会もあれば、良いと思う。フラワーデザインスクールでは、過去の卒業生に対して無料で講師セミナーを行っている。それを行うと何十年ぶりに来る方がいる。

・学校の今後（カリキュラムや学校そのものの方向性）を考える意味でもかなり本気で取り組むべきと思います。

・自己点検評価に信用をつけるのも良いが、このような場でいろいろな話を聞くと評価は自ずと上がっていってしまう。自己点検評価に、カリキュラムに反映している、在校生にフィードバックしている、ということを書いていれば、評価は４になった。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-3 新たな求人の開拓のための活動	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・案内企業を選択したのはいい事だと思います。 ・数多くの企業が生まれ、企業理念もミッションも多様になっていくので、それらに対応した体制は素晴らしいと感じます。 ・良いと思います。 ・「どこの企業でもよい」というのは過去の考えかたになりつつあると個人的には思っています。内容のしっかりとした取引先を重視することは社会全般の是正や底上げにつながります。御学園の未来ある学生ならびに社会に対するご配慮に賛同いたします。 ・学年により希望求人内容も変化すると思われるので、臨機応変に対応できるような仕組みをアウトソーシング先も含めて用意するのがよいように思う。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-4 カウンセラーによる学生相談室の設置 並びに相談システム	4（3 名） 3（2 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3.3　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・前述通り、カウンセリングと自己の精神衛生を健全に保つ重要性も知ることのできる、理想的な環境が用意されていると感じます。 ・良いと思います。それにより、学生の反応も今後参考にできたら良いと思います。 ・よい取り組みかと存じます。ただ、人によっては臨床心理士の範疇を超えた、誰にも解決できない問題を抱えている場合もあります。そういったケースをどうするかのメリハリも必要かと個人的には感じます。 ・学生相談室は、常設か不定期か、開設の頻度や相談件数がわからないので評価が困難。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-5 相談者の守秘義務の徹底	4（4 名） 3（1 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3.5　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・適切だと感じます。 ・良いと思います。 ・必要不可欠な措置だと存じます。 ・「他者へ漏らさぬよう、注意を払っている。」との記載をより具体的に書いてほしい。例えば、守秘義務のマニュアルがあるとか、守秘義務の研修をしているとか。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-6 相談内容によるカウンセラーと教職員との連携	4（4 名） 3（1 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3.5　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・適切だと思います。 ・病院の受診はデリケートな問題なので、その際のケアも慎重にできたら良いと思います。 ・そこまでケアされておられるというのは本当に寛大なことであると敬服いたします。 ・2 行や 3 行の説明では、評価困難。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-7 奨学金制度の整備	4（4名）3（2名）2（0名）1（0名） 平均　3.6　点

委員コメント
・奨学金の貸与については、保護者にもよく理解してもらう必要があります。
・適切だと思います。
・良いと思います。
・充実の極みではないでしょうか。
・ＪＡＳＳＯの奨学金は大切ですね。予約採用だけでなく在学採用についても継続して学生の相談に乗ってあげてください。また、修学支援制度の対象校の継続ができることを期待しています。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-8 奨学金貸与者の推移	4（4名）3（2名）2（0名）1（0名） 平均　3.6　点

委員コメント
・給付型奨学金を受ける学生が増えている事は、大いに喜ばしい。
・適切だと思います。
・良いと思います。
・成功例が出てきている様子を嬉しく思います。皆様々な事情を抱えている中でも、素晴らしい才能を埋もれさせないでいただければ嬉しいです。
・貸与奨学金受給者率と給付奨学金受給者率が同じ 16.8%となっていますが、偶然ですか？それとも誤植ですか？

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-9 学生寮の有無、管理・サービス状況	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・学生寮の存在の有無は学生と保護者にとって学校を決める大きな要因になるため、適切な環境が整えられていると思います。 ・体験宿泊など、事前に雰囲気が分かってとても良いと思います。 ・学生寮のメンテナンスには莫大な費用がかかります。御学園は学生寮をお持ちでないとのことですが、そんな状況下にも関わらず親切な対応をなさっていると存じます。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-10 定期健康診断の実施及び受診項目	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・適切だと思います。 ・良いと思います。 ・ときおり御学園の前に健康診断のための専用車が停まっているのを目にします。学園関係者各位の健康を慮る皆様の思い遣りに感謝いたします。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-11 卒業生のフォローアップ状況	4（1 名）3（5 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.1　点

委員コメント

・学園祭や卒公に卒業生がもっと来てくれるといいですね。

・卒業生へのフォローアップを視野に入れている（現状実践が始まっている）環境は、芸能・芸術の世界に入った人間にとってはとても有益なものになるので、素晴らしい体制だと感じます。評価３（今後の成果への期待値をー１）とさせていただきます。

・卒業後、何年分を対象にしているか分かりませんが、チラシの郵送なども引き続き行うとより宣伝効果が出るかと思います。

・同窓会は素晴らしいアイディアだと思います。できれば、卒業生と在校生との交流もあるとよろしいですね。

・特にありません。

・「検討したい」「考えたい」とあるので具体的に実行をお願いします。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
5-12 卒業生や就職先等関係者の意見聴取等の活用状況	4（1 名）3（4 名）2（1 名）1（0 名） 平均　3　点

委員コメント

・２～３年先を行く先輩たちの意見、現状の報告は学生達により新鮮な情報となるでしょう。

・職業訓練校として、常に外部関連企業との連携は大きな影響力を持つので、その体制を取れている現状に、評価３（コロナパンデミックのような状態になっても上手く実施ができる体制への期待値―１）とさせていただきます。

・次年度こそ連携を積極的に取っていけたら良いと思います。

・こうした取り組みが活発化するのが今後楽しみです。

VI. 教育環境

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-1 施設の使用状況	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・“場所を問わず”に学べる機会を提供できるシステムは、素晴らしいです。 ・良いと思います。 ・寛大な取り組みだと存じます。ただ、「社会に出たらこういう優遇措置はないので、施設を大事に使い、かつ最大限有効に使用すること」という旨をしっかりと学生にお伝えいただけると彼ら彼女らにとってよりよい学びになると思います。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-2 普通教室、実習室の面積(全体、学年 1 人あたり)	4（3 名） 3（2 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　　点
委員コメント ・広さは問題ありませんが、第 5 第 6 は双方の音が聞こえ、若干集中を削がれることが。 ・適切に思います。 ・良いと思います。 ・先日、施設を拝見しました。学生さんたちは幸せ者ですね！ ・標準値との比較がないと評価できません。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-3 保健室・休憩室の整備	4（3名）3（3名）2（0名）1（0名） 平均　3.5　点

委員コメント
・引き続きお願いします。
・適切だと思います。
・衛生面への対応は良いと思います。現在、換気設備などはどうなのかも気になります。（窓の開放や空気清浄機の設置など）
・きめ細かな対応かと存じます。
・保険室内の衛生面（ふとんの洗濯など）が気になるところではあります。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-4 自学・自習室の有無	4（5名）3（1名）2（0名）1（0名） 平均　3.8　点

委員コメント
・自主活動を育てる為にも、自習室などのフリー空間は必要ですね。
・自習室の設備とソフトウェアも業界標準で良いと思います。余裕ができたら、音楽編集ソフトは人によって向き不向きがあるので、理論的なソフトの CubasePro に加えて直感的に使用できる Logic Pro X もあると、様々な学生に表現の機会を与えられると思う。
・良いと思います。
・これも学生さんたちは恵まれています。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-5 各室の安全性、セキュリティ対策の状況	4（4 名） 3（1 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3.5　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・教室の窓にストッパーがないことで全開になってしまうのは、危険性を感じます。学生は、窓の手前に荷物を置く・実技の休憩で外の風を浴びる…などの光景をよく目にするので、何が起きてもおかしくない環境となってしまっています。電子系統に対しての注意は日頃から学生もありますが、窓や階段などの日常にあるものに関しては注意力が低下しやすい傾向があるので、ホテルのように外と教室を隔てるものがあると、安全性が保てると感じます。 ・良いと思います。 ・これ以上ない位のご配慮に敬服いたします。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-6 卒業生の利用希望への対応	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・賛成です。 ・「有料」という点がとても素晴らしいと思います。 ・良いと思います。 ・御学園を卒業したことの魅力的なメリットになりますね。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-7 教育用機器備品の整備、充実度	4（3 名） 3（2 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3.3　点

委員コメント
・引き続きお願いします。
・演技・ダンスに適した教室だが、ミラーがあることでボーカルレッスンに適した環境とはいえない印象を受けます。自身の声が反響することで、特に歌声はお風呂場で歌うような「上手くなった錯覚」を起こしやすくなってしまいます。ミラーをカーテンで覆えるようにするなど、吸音ができると多機能な教室になると思います。
・新しい機器の使い方や、必要なコードなど分かりやすくしておくと講師の方が使い方が分からず授業時間が減ってしまうこともなくて良いと思います。
・素晴らしい取り組みです。そんなわけですから学生さんたちには全身全霊学んでほしいですね。
・充実度はわかりませんが、パッと見で少し古いように見えます。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-8 視聴覚、情報機器の整備、充実度	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点

委員コメント
・お願いします。
・今後、教室にあるアンプが Bluetooth にも対応できると、より充実した環境を学生に提供できると思います。
・良いと思います。
・もしかしたら、実演志望の学生だけではなく、プロデュース業志望の学生も将来受け入れられたら素敵ですね。これはもう御学園に一つのエンターテイメントプロダクションを設けてはいかがでしょう？
・目新しい情報に触れることが出来るという感じには見えない（見た目のイメージ含む）。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-9 学校行事による学生間、学年間の連帯意識の育成	4（3 名） 3（3 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.5　点

委員コメント

・学生の企画、構成、連帯、運営などの能力を育てるためにも学生リーダーによる行事運営は大いに良いと思います。

・学生リーダーは上手く機能しているかと思います。ただ、責任を背負い込みすぎて精神的に学業に影響が出ないか心配になる光景をよく目にかけました。組織図を描けるようになる点では必要な学びですが、それが学業に支障が出てしまっては本末転倒になってしまうので、何かしら改善できる点があるかと…。

・他学科とのコミュニケーションもとれて良いと思います。各セクションにもリーダーをつくり、そことの連携も取れていると良いと思います。

・リーダーを指名することはよいことです。しかしながら、リーダーは辛い思いをすると思います。なにせ、多くの個性的な面々をまとめなくてはならないわけですので。もう取り組まれておられることを承知でリーダーのメンタル面でのケアをお願いいたします。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-10 学校行事による学生、教職員間の連帯意識の育成	4（3 名） 3（3 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.5　点

委員コメント

・引き続きお願いします。

・上述通りです。

・良いと思います。

・適切な処置と存じます。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-11 担任制による学生への対応の徹底と認識	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・進路相談を「随時」行うのは、職業訓練校として適切な体制だと思います。 ・各学科の担任同士もきちんと連携がとれていたらとても良いと思います。 ・よいことだと存じます。ただ、リーダーと同じで担任の先生方もかなりお辛いことがあると思います。もうなされていることを承知で申し上げますが、皆様でサポートしていただければよろしいかと存じます。 ・日々の学習状況や健康状態の把握には必須と思います。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-12 正課授業内に発生した事故への適切かつ迅速な対応	4（3 名） 3（3 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.5　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・保険加入は適切だと思います。前述通り、講師陣の動きも統一されていると良いかと思います。 ・良いと思います。 ・きめ細かな対応に敬服いたします。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-13 防災の対応マニュアルの作成と適切な対応	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・教職員間で前もって自衛消防組織の意識づけがなされているのは素晴らしいと思います。 ・良いと思います。 ・適切な対応だと存じます。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-14 防災訓練等による学生への防災対策の周知	4（5 名） 3（1 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.8　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・適切だと思います。 ・良いと思います。 ・適切な対応だと存じます。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
6-15 防災訓練の実施状況及び方法	4（4 名）3（2 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・地域交流も兼ねて、素晴らしい体制だと思います。 ・各階どこに消火器があるかも確認できて訓練できていたらとても良いと思います。 ・登校しているのにもかかわらず参加しない学生には何らかのペナルティを課してもいいくらい大切なことです。	

Ⅶ. 生徒募集

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
7-1 広報活動開始の時期、方法	4（5 名）3（1 名）2（0 名）1（0 名） 平均　3.8　点
委員コメント ・高校演劇コンクールの会場として山王ホール、テレビ番組とのタイアップなど良い提案と思います。 ・全体的に適切かと思います。無料広告となる TikTok やイベント映像などの“学生発信”となる媒体を整備する必要性を感じます。入学を視野に入れている人たちに一番近い（TV よりも近い）媒体なので。 ・体験授業プラス、オンラインによる説明会や相談会はとても有効的で良いと思います。 ・充実し過ぎと言っていいほど、多岐に渡る取り組みをなさっていると思います。 ・どこの専門学校も年中募集をしている印象がありますが、地方からの送迎バスを出しているところも少なく有りません。募集専任の職員や契約・アルバイトをある程度チーム編成したほうがいいと思われます。 ・結果が大切です。入学定員充足率を教えて下さい。	

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
7-2 誇大広告の自己点検（学校案内等）	4（5 名） 3（1 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.8　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・誇大広告の印象はなく、HP のデザイン・文言も適切だと感じます。 ・良いと思います。 ・広告の自己点検をなさっているのは素晴らしいことだと思います。	

Ⅷ. 財務

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
8-1 学校経営における適正度の点検	4（4 名） 3（1 名） 2（1 名） 1（0 名） 平均　3.5　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・適切だと思います。 ・良いと思います。 ・適切な対応だと思います。 ・公認会計士監査は受けており、計算書類の信頼性は確保しています。ただ、事業活動収支計算書の経常収支差額は、3 年連続マイナスであり、財務内容については著しく注意すべき課題があります。	

IX. 法令等の遵守

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
9-1 法令遵守の状況について	4（4 名） 3（2 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.6　点
委員コメント ・引き続きお願いします。 ・適切だと思います。 ・良いと思います。 ・適切な対応です。 ・寄附行為や学内諸規程を遵守して、学校運営を行っているかの記述もほしい。	

X. 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
10-1 教職員・学生・生徒が活動するための学校の支援体制 ※第 2 回　当日討議項目⑥	4（5 名） 3（1 名） 2（0 名） 1（0 名） 平均　3.8　点
委員コメント ・卒公の協賛チラシや、ロケに地域の店を使っているなど、地域の中の専門学校ということが感じられて良いと思う。リアルに地域の方と接点をもつことは良いと思う。 ・地域貢献プラス、たとえば地域の小学生が芸術鑑賞で学校の公演に来るなど、機会があれば良いと思う。 ・地域をロケ地にすることで、お互い winwin の関係になれていると思う。協賛活動も良いと思う。 ・地域貢献は難しい。頼られると限りなく頼られてしまう。一線を画しているところがある中で、このような取り組みはすごいと思う。 ・町内会、ボランティア、防犯音声ポップに選ばれたなど、学校が後押しすることが多くて良いと思った。	

XI. 国際交流

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
11-1　留学生の受入れ・派遣のための体制整備	4（4名）3（2名）2（0名）1（0名） 平均　3.6　点

委員コメント
・日本語能力の高さは表現を学ぶ場所故、特に重要です。（留学生の決意をくじけさせない為にも）
・留学生担当職員、奨学金の設備、すべて適切だと思います。
・良いと思います。ただ、留学生の生徒へのフォロー体制など何かとれているのか疑問です。
・昨今インバウンドの重要性がささやかれますが、そうだとしても海外からの学生は日本の社会に不慣れな面が多いですので、多岐に渡る確認作業が肝要かと存じます。
・「日本に演劇・演技を学びに来る留学生」というニーズが果たしてどこの国にどれだけあるのかをよく調査した上ですべきことと思います。

評価項目	適切・・・4　ほぼ適切・・・3 やや不適切・・・2　不適切・・・1
11-2　国際交流の枠組	4（1名）3（4名）2（1名）1（0名） 平均　3　点

委員コメント
・海外研修も実施できるようになると良いのだが。
・世間の目も SNS により肥えてきているので、ロンドン・ニューヨークへ研修に行くだけでなく、国内でも海外とつながる体制を強化できると良いと思います。
・そろそろ実施できることを願っています。交換留学のように、逆に海外から 1 週間ほど学生が体験入学するのも刺激があり良い気がします。
・学生が世界を見る事はとても大切だと思います。また、これから海外の人々にも日本のエンターテイナーを知っていただくことも重要ですね。期待を込めて③としました。
・演劇・演技での国際交流を前提にすると「言葉の壁」があって難しい。他の切り口を考えるべき。
・国際交流の枠組みがないとのことなので評価を「2」にしています。

2023 年度 第 1 回学校関係者評価委員会　議事録

日時：2023 年　11 月　1 日（水）14:00～
場所：日本芸術専門学校 第 5 教室

出席者：
学校関係者評価委員 3 名（敬称略）

企業等評価委員	小高 三良	プロダクション・タンク所属・ 声優基礎・洋画アフレコ授業講師
企業等評価委員	森田 槙	株式会社ペリドット・カンパニー所属・ ミュージカル研究講師
地域住民	川崎 景介	マミフラワーデザインスクール校長

自己評価委員 5 名

理事長 日本芸術専門学校　校長	**武田 光弘**
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ部 部長 兼 企画営業部 部長	**西垣 俊紘**
法人本部 事務局部長	**広井 里佳（議事録）**
総務課長	鈴木 秀範
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ部	**後藤　千恵**

欠席者：
学校関係者評価委員 3 名（敬称略）

欠席　卒業生	石原 綾乃	**日本芸術専門学校卒業生**
欠席　高校等評価委員	**岸本　南**	**東京表現高等学院 MIICA 副校長**
欠席　専門家等評価委員	**梶間　栄一**	**公認会計士**

中迫氏が司会進行。
まずは武田氏が校長挨拶を行った。
次に司会から、委員及び教職員の紹介を行った。委員については本日ご欠席の方についても簡単にご紹介した。

□本日の流れ及び趣旨説明

次に司会から、配布資料の案内と本日の流れを説明した。
配布資料は下記のとおり。

① 本日の議題
② 日本学生支援機構 給付型奨学金リーフレット
③ 学校評価スケジュール
④ 学校評価組織体系
⑤ 2022 年度事業報告書
⑥ 2022 年度の取組
⑦ 2023 年度前期　学生アンケート結果
⑧ 2022 年度自己点検・評価
⑨ 学校関係者評価 記入シート
⑩ 学校関係者評価シート　過去の一部抜粋
⑪ お振込先等ご記入シート

◆学校関係者評価委員会の概要についての説明

次に司会から、まず学校関係者評価委員会の概要についての説明を行った。
参照資料は「②日本学生支援機構 給付型奨学金リーフレット」。
内容は下記のとおり。

2019 年度に本校で「高等教育の修学支援制度」の対象校になるための申請を行い、2020 年度に対象校として認定された。
この制度の対象校となることで、授業料・入学金の免除または減額と、給付型奨学金の大幅拡充により、学生への手厚い進学支援が促進され、より多くの方にご入学いただくことが可能となる。
対象校となるためには、定員充足率や学校の財務状況など学校側の要件も含まれており、継続するためには毎年度審査があり、更新手続きが必要となる。現時点では 2024 年度まで対象校を継続できる予定だが、2024 年度からの審査の厳格化に伴い、2025 年度以降学校の財務状況によっては、対象校から外れてしまう可能性が極めて高い状況となる。そのような状況にならないように、また 1 度外れても再度認定されるように、学園全体で努力を続ける所存。

また学校では、学校の教育活動その他の学校運営の状況について評価を行い、その結果に基づいて学校及び設置者等が学校運営の改善を図ること、及び評価結果等を広く保護者等に公表していくことが求められるため、毎年学校関係者評価委員会を開催している。

さらに、今年度からは文部科学省が認定審査を行う職業実践専門課程という制度の認定校となることを目指しており、この制度の認定を受けると、「職業に必要な実践的かつ専門的な能力を育成する」学校であることが認められるが、申請をするにはカリキュラムの編成や授業内容、教員研修などにおいて、各分野の企業と連携しながら実施することが編成要件となっており、その要件としても、学校関係者評価委員会の開催が求められる。

◆学校関係者評価委員会等に関する制度の詳細についての説明、及び学校評価サイクルについての説明
次に司会から学校関係者評価委員会等に関する制度の詳細についての説明、及び学校評価サイクルについての説明を行った。
参照資料は「③学校評価スケジュール」と「④学校評価組織体系」。

学校評価サイクルについては、これまでの流れを変更し、今回から、昨年度（2022 年度）の内容・実績を今年度（2023 年度）の春に自己点検・評価に反映し、学校関係者評価委員会を秋～冬にかけ 3 回開催する予定とした。これにより、退学率や就職率等も正確な数字が反映され、 1 年間が網羅された学校評価となり、より計画的な改善策を実施することが可能となる旨説明をした。

この自己点検評価表を、第三者機関としての学校関係者評価委員の皆様に項目ごとに評価していただき、それを公表することで、学校の適切な運営につなげていくというものが、この制度の趣旨となる旨も説明をした。

□2022 年度の取組と 2023 年度前期アンケート結果による中間発表
◆2022 年度の取組
次に今回の評価対象年度となる、2022 年度の取組について、最初に理事長から 2022 年度事業報告についての説明を行った。参照資料は「⑤2022 年度事業報告書」。
そのあと、本校の 2022 年度の取組について、後藤氏が説明を行った。参照資料は「⑥2022 年度の取組」。
モニターで 2022 年度の行事の映像も流した。

◆2023 年度学生による前期アンケート結果
次に 2023 年度学生による前期アンケート結果について、後藤氏から下記内容の説明を行った。
・今年度 2023 年度は評価対象年度ではないが、学生の声については最新の情報を伝える。

・今年の 8 月に全学生 82 名を対象に Google フォームというツールで意見を募集した。
そのアンケート結果をまとめた。参照資料は「⑦2023 年度前期学生アンケート結果」。
アンケートの質問は主に 3 項目。

１．授業を受けて思ったこと、感じたこと。
２．行事(ガイダンス、入学式、オリエンテーション、特別講義)で思ったこと、感じたこと。
３．その他、（施設設備や学校生活のことなど）

・前期アンケート結果については、実際の学生の意見をほぼ全て記載している。
まず質問項目 1 の「授業を受けて思ったこと、感じたこと。」については、満足という意見がある一方、不満や要望も書かれている。その中の授業数が少ないという声は毎年あり、年間の総授業時間数は満たしているものの、そのような意見も受けて 2025 年度から 3 年制の開校を予定している。

他にもいくつかアンケートの内容を紹介した。

□施設案内
次に校内ツアーというかたちで、実際に委員の方々に学校の施設を見学していただいた。

□委員長選任
次に委員長の選任を行うため、武田氏より、本校で長い間、声優基礎や洋画アフレコのご指導をしていただき、前回の学校関係者評価委員も務められた小高先生に委員長をお願いできればと考えているが、いかがでしょうか、提案を行った。
全員が拍手で賛同し、委員長は小高氏に決定し、小高氏も快く引き受けてくださった。
ここで司会から、学校関係者評価委員会の運営や事務手続きについては、今後もすべて学校が行う旨説明を行った。

□2022 年度 自己点検評価・重点項目について説明・評価・討議

◆2022 年度 自己点検評価・重点項目について説明
次に司会から、学校関係者評価委員の皆様に、実際に評価していただくシートについての説明を簡単に行った。参照資料は「⑨学校関係者評価　記入シート」と具体的な参考資料として「⑩学校関係者評価シート　過去の一部抜粋」。

次に司会から、下記内容の説明を行った。
・本日すべての項目についての評価は時間の都合上難しいため、後ほど自己点検評価表の項目の中から選択した３つの項目を重点項目として、実際にこの場で評価していただこうと考えている。
・これまでの学校関係者評価委員会にて、もっとこの場で討議する項目を増やしてはどうかという貴重なご意見を頂戴したため、次回の委員会では重点項目以外の 6 項目を、この場で皆様と意見交換をさせていただきたいと考えている。
・この場で討議する項目以外については、大変お手数ですが、後日皆さまにご記入いただきご提出をいただくかたちとなる。

◆評価・討議
まずは本校で考える３つの重点項目について、なぜその項目を今回重点項目として選んだのかということも含めて、武田氏より説明を行った。

① 時代、社会、学習者のニーズへの適合（Ⅰ－2）［自己点検評価］1 ページ　［学校関係者評価］1 ページ
武田氏より、本校で即戦力としての人材を育てているのかどうか、これからの業界がどのようなことを求めているのか、それを１早く学生に伝えたいと考えている、そのため皆様の意見を直接伺いたいと考え、まずこの項目を選んだ、という説明があった。

② カリキュラムの定期的な点検及び見直し（Ⅲ－4）［自己点検評価］3 ページ　［学校関係者評価］9 ページ
武田氏より、本校のカリキュラムの点検や見直しが適切に行われているか、チェック機能を確かめたいと考え、２つ目にこの項目を選んだ、という説明があった。

③　就職・資格取得・中退予防等の取組が適切か（Ⅳ－１）[自己点検評価] 5、6 ページ　[学校関係者評価] 17 ページ

武田氏より、俳優を育成する芸能学校として、役立つ授業が開講されているか、志し半ばで諦めてしまうことなく充実した 2 年間を過ごすためのアドバイスなどをいただきたいと考え、3 つ目にこの項目を選んだ、という説明があった。

ここで森田氏から、「可能であれば、カウンセリングを受けている学生の割合を教えてほしい」と質問があった。
そこで後藤氏が「1 ヶ月で多くて 4 名程受講しており、同じ学生が受けることもあるが今の枠で間に合っている。」と回答した。
次に小高氏から「前は授業の中で悩みを言う学生もいたが、今はいないように思う。」と発言した。
ここで中迫氏を始め自己評価委員から、「カウンセリングの内容については、守秘義務があるので、学校も聞いていない。学生に特筆事項がある場合は、年度始め、授業が始まる前に事前に講師の皆様に伝えている。」と補足説明を行った。

続いて、実際の討議項目に入った。
詳細は下記のとおり。

重点項目①　時代、社会、学習者のニーズへの適合（Ⅰ－2）

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

表現者の段階に限度はない。少なくともこの学校で学ぶ 2 年間で、現場にでても恥ずかしくない段階には達していると思うので、この評価と考えた。

森田氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

この学校から、現場でのスタート地点に立つまでの準備はできて、卒業となっていると思う。
たとえば英語の単語だけでも理解できる状況があれば、強みの 1 つになると思う。

ここで中迫氏から「英語の授業はもともとあったが、なかなか履修者が少なく現在廃止になっているという背景もある。」と発言があった。

川崎氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

まだこの学校に伸びしろがあると思うのでこの評価。3 年制のコースが今後うまくあてはまったら、評価は 4 になると思う。アンケート結果や取組などが学生の目線で考えられており、教育理念があるのも素晴らしいと思う。

重点項目②　カリキュラムの定期的な点検及び見直し（Ⅲ－4）

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

多彩なカリキュラムがあるが、学生の要望や世の中の流れに応じて、変わってきたと感じた。変遷させていく

姿勢は良いと思う。
一方で、学生に礼儀がある、ちゃんとできているということを業界にもっと浸透させていくためにも、表現者の表現以外の部分、人格で評価されることができる講座をもっと増やすことも良いと思う。

森田氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
芸能の世界にあこがれて入ってくる学生が多いので、この業界にふれあうというところから始めるという意味では、今のカリキュラムで良いのではと思う。
さらに、考え方の切替やけじめをつけられる、表現者の表の部分だけでなく裏の部分も見せられるようなカリキュラムを、どこかにうまくすり込んでいけるのも良いのでは。校外学習で学ぶのも良いと思う。

川崎氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
教育課程編成委員会がこれから始まって、それが機能したら評価は 4 になると思う。

ここで森田氏から、「現在私の授業と森川先生という別の講師の授業連携を行っているが、他にもそのような連携を行っている授業があるどうか知りたい。」と質問があった。
そこで自己評価委員から、「現在そのようなケースはないが、講師同士の連携、という機会があると本当に良いと考えている。」と説明があった。

重点項目③　就職・資格取得・中退予防等の取組が適切か（Ⅳ－１）
小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
中退者が少なくなってきているのは、うれしいこと。退学というのは、学生もつらいし、学校側もつらい。
プレシャスオーディションの機会はとても良いと思う。オーディション後、たとえば劇団員の構成員として入れる割合が増えていけば良いと思う。

森田氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
中退予防の取組としては 3 の評価。
この業界ではどんなにメンタルが強くても、急激に大変な状況が生じることでメンタルがやられてしまう可能性が多くある。
自分のことを話す、自分を知るというのも、中退予防のきっかけになるのかもしれない。
心理学に関する資格、心理カウンセラーになれる資格取得の機会があればもっと良いと思う。

ここで後藤氏から「一方でカウンセリング講習に対しての出席率が極めて低かった。自分は大丈夫だと思っている学生が多いのかもしれない。」と発言があった。

川崎氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
まず努力していることが素晴らしいと思う。
この学校で学ぶと、いろいろなことができると思う。みんなを元気にできる力、スピーチプレゼンテーション力、まとめる力など、芸能だけではなくどんなことにも通じる力が備わると思うので、いろいろなことができるということを打ち出すと本当に良いと思う。また、とても緊張することが多いと思うので、たとえばヨガ以

外にピラティスや呼吸法などを取り入れるのも良いと思う。
自身のスクールが、この学校の真向かいにあるので、普段隣にいて、職員や学生の会話など聞こえてくるが、それを聞くと学生への愛情を感じる。この学校にはポテンシャルがあると思う。

次に司会から、下記内容について説明を行った。

・今後のスケジュールについて、2 回目は 2 月 26 日から 3 月 1 日の間のいずれか、3 回目は 3 月 21 日から 3 月 28 日の間のいずれかを予定している。

・次回 2 回目の開催時は、学校関係者評価記入シート内に【第 2 回 当日討議項目】と記載している 6 つの項目の評価・討議の時間とさせていただき、3 回目の委員会の際には、学校関係者評価シートの完成版をご確認いただき、次年度（2024 年度）の取組等についてご説明させていただく予定。

・本日ご評価いただいた 3 項目と次回ご評価いただく 6 項目については、この場で討議した内容をもとに報告書に記載するため、改めて記入シートへのご記入は不要。
その他の項目については、12 月 26 日（火）までにメール、または郵送にてご記入の上、提出をお願いする。
また、次回欠席される場合は、当日討議を行う予定の 6 項目についても、後日追加で評価をご記入の上、提出をお願いすることとなる。

・既にご提出いただいている就任承諾書にも記載しているが、今後評価の公表にあたり、学校関係者評価委員会の皆さまのお名前をホームページ等で掲載させていただくこととなる。

・学校関係者評価委員の皆様への報酬については、ご出席いただいた回の実費交通費（1 回ごとの上限 1 万円）と、学校関係者評価をいただく作業についての報酬として皆様一律 1 万円（源泉控除前）の合計を、第 3 回の委員会終了後にお振込みするため、配布資料⑪のお振込先ご記入シートを次回でも構わないので記入していただきたい。

最後に司会からお礼を述べ、この会は 16:30 に終了した。

以上

2023 年度 第 2 回学校関係者評価委員会　議事録

日時：2024 年　2 月　26 日（月）14:00～
場所：日本芸術専門学校 第 3 教室

出席者：
学校関係者評価委員 6 名（敬称略）

企業等評価委員	小高 三良	プロダクション・タンク所属・ 声優基礎・洋画アフレコ授業講師
企業等評価委員	森田 槙	株式会社ペリドット・カンパニー所属・ ミュージカル研究講師
地域住民	川崎 景介	マミフラワーデザインスクール校長
卒業生	石原 綾乃	**日本芸術専門学校卒業生**
高校等評価委員	**岸本 南**	**東京表現高等学院 MIICA 副校長**
専門家等評価委員	**梶間 栄一**	**公認会計士**

自己評価委員 5 名

理事長 日本芸術専門学校 校長	**武田 光弘**
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ部 部長 兼 企画営業部 部長	**西垣 俊紘**
法人本部 事務局部長	**広井 里佳（議事録）**
総務課長	鈴木 秀範
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ部	**後藤 千恵**

欠席者：0 名

中迫氏が司会進行。
まずは武田氏が校長挨拶を行った。
次に司会から、委員及び教職員の紹介を行った。委員については本日ご欠席の方についても簡単にご紹介した。

□本日の流れ及び趣旨説明

次に司会から、配布資料の案内と本日の流れを説明した。
配布資料は下記のとおり。

① 本日の議題
② 2022 年度 自己点検・評価
③ 2022 年度 学校関係者評価 報告書
④ 補足資料

□評価コメントについての詳細説明

次に司会から、学校関係者評価委員の皆さまよりいただいた評価をまとめたことと、大変多い項目をご評価、ご記入いただいたことについて、お礼を述べた。
またその他説明を行った。
内容は下記のとおり。
学校関係者評価表については、このあと討議する評価を追加し、完成とさせていただく。
完成した報告書は、後日皆さまにメールにてお送りするので、報告書をご確認いただき、訂正が必要な箇所があった場合は連絡をいただきたい。
また、この報告書がホームページ等の情報公開に公表されることとなるが、
現時点で皆さまそれぞれの評価結果の後ろに記載しているお名前は、ホームページに掲載する際には割愛させていただく。
学校関係者評価委員の構成や、各回の議事録については、皆様のお名前を表記させていただく。

◆補足資料についての説明

次に司会より、本日の討議の前に、皆さまより頂戴した評価コメントの中で、ご質問いただいた箇所や補足の必要がある項目について、一部説明を行った。
参照資料は【資料④ 補足資料】。

司会の説明後、梶間氏より「限られた人数である中、丁寧に対応していただいたと思う。
今後、自己点検評価に、より具体的な記載をしていただけるとありがたい。」と発言があった。

□本日の討議項目について説明・評価・討議

次に、司会より、第 1 回開催では、自己点検・評価の項目から選択した 3 つの重点項目について、この場で討議し、評価を頂戴した、これまでの学校関係者評価委員会にて、もっとこの場で討議する項目を増やしてはどうかという貴重なご意見を頂戴したため、今回は更に 6 項目を、この場で皆様と意見交換をさせていただければと考えている旨、説明を行った。

◆評価・討議

まずは本校が選んだ 6 項目について、なぜその項目を今回選んだのかということも含めて、校長　武田氏より説明を行った。

① カリキュラムの構成（教養科目と専門科目、座学と実習など）（3－2）

［自己点検評価］ 3 ページ ［学校関係者評価］11 ページ

武田氏より、本校は演劇の学校であるため、実習が得意で座学が苦手という子も多い。卒業したあと、学校でなにを学んできたのかと現場から言われることがある、実習と座学はバランスが大切だと思うが、皆さまにいろいろとご意見をいただきたい、と説明があった。

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

この学校の公演の充実度は大きいと思う、座学という分野がもっと充実していると良い。20 歳前後の子がたとえば演技論を休憩時間や学校の外で熱く語れる場というのが少ないが、それがあると自分の中にその経験が血肉として蓄積されていくと思う。理論の骨組みを学習する座学がもっとあれば良いと思う。

梶間氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

自己点検評価のたった 2 行から評価するのは難しい。ただ普段教職員と接していて、教育関係については誠実だと感じるので、この評価。

川崎氏の評価は「2」。下記はそれに対する意見。

内面は分からない。フラワーデザインスクールは実技で、私は座学を担当しているが座学は人気がない。
御校でも座学に力を入れていただきたいと思うので、期待を込めてこの評価。まだ伸びしろがあると思う。
難しいと思うが、自己点検評価に書いてあることは素晴らしい。座学はおもしろい講師に来ていただくのが良い。
私も講師を選ぶときに Youtube をみたり、公演など聞きに行ったりする。100 人が 100 人おもろしい人はいない。研究者としては優れているが、公演者としてはどうか、という人もいるので、話がおもしろい方が公演を行うとバランスが良くなるのではないか。座学を教えていただいている方同士の意見交換も大事だと思う。

森田氏の評価は「2」。下記はそれに対する意見。

評価の気持ちは 2 から 3 の間。他の学生に座学どう？と聞くと、なにを言っているか分からないという意見が多いため、一方通行になっていると感じる。聞いている人が興味ないので、私の授業の場合はワークショップにして知的好奇心をくすぐる。
たとえばノアの箱舟、エデンの園をあえて落語にして話してみる、など、なにかしら興味を持たせ一方通行にならないように工夫している。学生にというよりは、教える側が座学に対する意識を変えるのが良いと思う。

石原氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

専門学校は義務教育ではないので、座学はもっと自由に生徒同士のディスカッションができる場所、どういう芝居の理念をもっているか、意見をぶつけあえる場所となると、自分にない考えを共有できる場となると思う。それにプラス講師を交えてのディスカッションできる場があれば、堅苦しいイメージもなくなるのではないだろうか。
整体・ヨガについては、在校当時は卒業公演の稽古と授業が被っていた。時間割りの調整をしてもらえればいいと思う。
ここでアドミニストレーション部より、現在、授業と稽古が被るようなことはない。もし欠席してしまっても、別途レッスンに通えるようになっている、と説明があった。

岸本氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

インターネットがこれだけあって、海外のミュージカルもネットで見られる。知り合いの海外の俳優に勉強している内容を聞くと、座学がとても多い。座学の内容をもっと工夫できれば良いと思う。

② 教員の教育能力開発への取組状況（3－21）

［自己点検評価］5 ページ　［学校関係者評価］21 ページ

武田氏より、本校は演劇の学校なので、照明や音響の授業がある。職員で演劇を学んでいる人が少ないので、演劇とはなにか、という教育をすることが必要だと思う。その点において皆さまの意見を伺いたい旨説明があった。

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

まず小高氏より、具体的にどのような研修に参加したか？と質問があった。

それに対してアドミニストレーション部より、2022 年度は世田谷パブリックシアターに研修として参加したと回答した。

学生が学んでいることをサジェスチョンする中で、職員も現場に慣れていると、学生へのアドバイスが的を得たものになると思うので、良い取組だと思う。

梶間氏の評価は「2」。下記はそれに対する意見。

自己点検評価だけでは、とにかく評価できないが、学校を応援する気もちがある。

これだけの研修では足りず、教員の能力開発が大切であると考える。

川崎氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

これだけでは評価が難しい。教員の能力開発については、忙しさに追われていて、お金もかけて、というのは難しい。

フラワーデザインスクールの中でも難しい。照明や音響だけでも、やっていることに意味があって、

今後も取り組むと書いてあるので、この評価。

教員の根底にあるのは、コミュニケーション能力だと思う。学校内でもスキル開発ができるのではないか。たとえばみんなでミュージカルを観て感想を言い合う。講師同士の意見交換など、極力お金と労力をかけずに校内でもスキル開発ができるのではないかと考える。

森田氏の評価は「3→4」。下記はそれに対する意見。

まず、森田氏よりインプットで学んで、アウトプットで学ぶ機会はどれくらいあるか？と質問があった。

それに対してアドミニストレーション部より、行事でセッティングする、機材トラブルの対応などアウトプットの場はないが、それが活かされている。今年度は、学生のプレスコをとる機会もあったと回答した。

私は学生にどう良い影響があるかを常に考えている。演じる側だけでなく、サポート側テクニカル側がいて成り立つという考えが欠落している学生が多い。

学ぶというより、どのようにアウトプットするかというのが大事だと思う。

職員がいないと成り立たないということを学生に思わせることができれば、良いと思う。

サポートしてくれる側がテクニカルのことができると、学生としてもはっと気づかされる、意識が変わっていくのではないか。

石原氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。

音響、照明などは、職員室にいるどの先生に聞いても基本的なことは分かるというレベルになっているだろうか。教室の音響だけでなく、ホールの音響なども、どこまで教職員が同じレベルでできるか、たとえば研修に休んだ場合の共有など、どうなっているか気になったので、この評価。

岸本氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。

教職員の本来のいる意味は、生徒の将来にどれくらい寄り添えるかということ。デビューや就職につなげなければいけない。生徒とのコミュニケーションのツールとしては、研修することはとても良いと思う。

ミュージカルを観にいく、などは普段の努力。他校の情報などを聞いたり、人脈をつくったり、就職活動の情報収集などが大事。それを日々行っている上で、このような研修に出ているということで、この評価。

③ 動向分析（4－2）

［自己点検評価］6 ページ　［学校関係者評価］25 ページ

武田氏より、本校では 2 年後プロとしてすぐに旅立たせないといけない。そのような中プレシャスオーディションを受けても、自分の行きたくないプロダクションには行かないという学生がいたり、プロダクションとして来ているが、養成所で入るとお金がかかったりという状況もある。
オーディションに参加させることが良いのか、プロダクションは絞りこんだ方が良いのか、たくさん呼んだ方が良いのか、アドバイスをいただきたい旨説明があった。

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
プレシャスオーディションのかたちをとるのは、とても良いと思う。オーディションに来てくださる方々は、まず最初に出会う現場の人たちということで、次の劇団などにつながっていくのはとても良い。
来てくれるプロダクションのしぼりこみは、学校が主体となって行うべき。
現場に出て行って、プロの現場で恥をかきながら少しずつ仕事を覚えて、何年か後にプロになっていけばいいので、卒業後養成所という選択肢は要らないのではないか。
梶間氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
学習成果の動向分析であるが、専門学校は職業教育、教養教育を掲げている。教育の 1 つの指標としてあるのが就職率。学生の出口を気にしているのは良いと思う。中退率も動向分析に入れているのは良い。退学者がでるということは、学校側になにか理由があるかもしれない。
川崎氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
できることを全て行っていると思う。
学生が 1 人立ちするためには、学校だけでなく外部の力も必要。
ここで川崎氏より、プレシャスオーディションはとても素晴らしい、自発的にオーディションを受ける学生へのサポートは？と質問があった。
それに対してアドミニストレーション部より、たとえばここの事務所はどう思いますかと聞かれた時に、アドバイスをしたりしていると回答した。
学校だけではオーディションはできないので、プロダクションの方との連携は大事だと思う。
中退率は、10%以内におさえられているので、良いと思う。
プレシャスオーディションをさらに充実させてほしい。
森田氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
・養成所も呼ぶかについて
プレシャスオーディションは絶対に行い続けた方が良い。
たとえば楽曲コンペは落ち続けるが、続けているとある時連続で受かる時がある。
プレシャスオーディションは窓口を広げた方が良い。見る人が多い方が良いのではないか。
授業の最後に、やっとミュージカルのおもしろさが分かったという学生がいた。
そのような子はきっと養成所に行きたいと思う。
ここでアドミニストレーション部より、2022 年度から、プロダクションの選定を始めた。
以前は 150 社近くいたが、70 社台に減った。
卒業生がいるところは、養成所でもお呼びして、明らかに商売だと思う養成所はお断りしている。
職員の中の事務作業もあるので、それらも鑑みて 70 社という数字に減らしていると説明があった。
中退率については、学生の時に、友達の 7 割が中退した。整備士などの学校と比べるとエンタメ分野の学校は話が変わってくる。それを鑑みると、中退率は低い方だと思う。その予防線としての相談窓口としているので、最善の対策もとられているのではないか。

石原氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
プレシャスオーディションについて、ザ・ビジネスのところは選別、養成所でも先が見えるところは良いのではないか。先が見えないところを無理に呼ぶと、学生が実際に面談をしても少し違うなと感じたり、時間がもったいないことにもつながる。
岸本氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
就職率とあるが、他の言葉が良いのではないだろうか。プロダクションに所属することは難しいので、プロダクションの所属率 30%とすると本来すごい数字だが、それを就職率とすると他のビジネス専門学校の就職率などと比べると低く見えてしまうので、損をしていると思う。
所属率をさらに上げるために、プレシャスオーディションも新しいかたちを企画するのも良いのではないか。
ここで武田氏やアドミニストレーション部より、確かに数字の出し方が難しい。プロダクション所属はエージェント契約となるので、就職とはまた違う。文科省が指定する項目を読み替えていいかどうか確認したい、と説明があった。

④ 担任、担当者による進路・就職相談の実施（5－1）

[自己点検評価] 6 ページ　[学校関係者評価] 26 ページ

武田氏より、担任がアドバイスをしているが、業界のプロではないので、学生の求めていることにどれくらい応えられているか。的確にできれば良いと思うがどこまで正確な回答をしているか、心配なところがあるため、特に講師の皆さまにアドバイスをいただきたいと説明があった。

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
なにも知らない学生に、少しずつアドバイスをして業界の事情を知らせていくことが大事。
とにかく早い段階から進路、なにになりたいか目標を教員と学生の間で共有してほしい。
カリキュラムを使って、なにをすべきか、学生自身が 4 年後 5 年後を見据えて、どういう技術を習得していくか考えてほしいが、今の学生は受け身が多い。2 年の最後に慌てないためにも、早い段階からなにになりたいか、目指す目標を学生にせっついてほしい。
梶間氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
評価が難しいが、この自己点検評価の一文には重要なことが書かれている。
この文から、他にも様々なことを行っているだろうということは、推測できるので、この評価。
川崎氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
まず川崎氏より、面談はだれがするか？と質問があった。
それに対してアドミニストレーション部より、その分野の専門ではなく、教職員の面談。講師は入らないと回答した。
担当教員と、専門分野の分かる方（講師）の三者面談を行う機会があると、より三者の意思疎通があって良いのでは。時間や契約の面も関わってくるので難しいと思うが、学生にとっても早い段階でなにかを気づくことができるかもしれない。
森田氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
まず森田氏より、面談でどのようなことを話すか、質問があった。
それに対してアドミニストレーション部より、なにをやりたいと思っているか、面談では聞いている。
所属コースとやりたいことが違う学生もいると回答した。
面談はあくまで学生のやりたいことを重視して聞いていくスタンス。
プロダクションによって色がある。それを学生本人が分からないことがあるので、それは第三者目線で教えて

あげるのも良いのではないか。
学生のやりたいことにプラスして、教員や講師からの「こういう面があるから、ここがいいんじゃない？」と言えるのではないか。このようなプロダクションがあるよということを、学生が知ることができる機会があれば良いと思ったが、そのような機会があるということなら、評価は 4。
石原氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
面談のタイミング、時期や回数を増やすということを検討した方が良い。
三者面談はとても良いと思う。横のつながりが多いと、ちがう視点でアプローチできるので、良いと思う。
岸本氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
担当の先生が 1 対 1 で面談をしているとあるが、たとえば、MIICA では進学の相談があった場合、担任のみならずその分野にくわしい先生がつくようにしている。講師の先生にアドバイスが必要な時は、適宜聞いたりしている。生徒本人の面談の他に、プロダクションの方と教員が面談する機会を設けていることもある。

⑤ 卒業後の進路調査の徹底（5－2）

[自己点検評価] 6 ページ　[学校関係者評価] 27 ページ

武田氏より、最新の調査を行っているが、卒業生の情報をどのように把握するのが良いか。良い方法があれば教えていただきたい、と説明があった。

小高氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
学生が卒業後別のプロダクションに所属した場合は、理由があると思うので、そのような情報を把握した方が良い。先日の卒業公演に来ていた卒業生もいた。そういった卒業生は生き生きとした情報を持っているので、卒業公演の案内など卒業生に知らせる手立てがあった方が良い。
梶間氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
自己点検評価に信用をつけるのも良いが、このような場でいろいろな話を聞くと評価は自ずと上がっていってしまう。自己点検評価に、カリキュラムに反映している、在校生にフィードバックしている、ということを書いていれば、評価は 4 になった。
川崎氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
同窓会は、やった方が良いと思う。
同窓会で在校生にパフォーマンスをしてもらうなど、軽めにイベントを作って会費制にしても良いと思う。
それを続けて、先生と話す機会もあれば、良いと思う。
フラワーデザインスクールでは、過去の卒業生に対して無料で講師セミナーを行っている。
それを行うと何十年ぶりに来る方がいる。
ここで小高氏より、卒業公演の時に、語り合えるブースなど、場所を提供するだけでも良いと思うと発言があった。
森田氏の評価は「3」。下記はそれに対する意見。
同窓会や講習会、在校生が卒業生に質問できる機があると良いと思う。
私は卒業校からいまだにメールがくる。人材募集などのメールもある。
それがあると、そのようなことを今やっているんだな、ということが分かる。
ここでアドミニストレーション部より、2018 年度まで遡って、フォームで今どうしているかを回答してもらう機会があったと説明があった。
それを受けて森田氏から「たとえば、そこに在校生の質問なども書いてあげると、卒業生は答えてあげようと思うかもしれない。」と発言があった。

石原氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
卒業生をどう追っていくかは、難しい問題。後輩からの質問メールなどは良いと思う。
卒業して 5 年経つと、業界から離れている人が多い。実際同期でもそう。
追いかけられる範囲は 5 年が限度なのではないか。
卒業してたとえば 2 年後に、進路先の状況はどうですか、と 1 度でも聞いてあげる機会があれば良いのでは。
逆にしつこく追いすぎるのは、別の問題になると思う。

ここで 16 時なり、岸本氏が時間のため退席した。
残りの項目は、後日メールでいただくこととした。

⑥ 教職員・学生・生徒が活動するための学校の支援体制（10－1）
[自己点検評価] 12 ページ　[学校関係者評価] 41 ページ

武田氏より、地域貢献、大森山王 2 丁目のエリアにまだまだ貢献できると思うので、皆さまにもご意見やお考えを伺いたいと説明があった。

小高氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
卒業公演の協賛チラシや、ロケで地域の店を使っているなど、地域の中の専門学校ということが感じられて良いと思う。リアルに地域の方と接点をもつことは良いと思う。
梶間氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
町内会、ボランティア、防犯音声ポップに選ばれたなど、学校が後押しすることが多くて良いと思った。
ここで梶間氏が時間のため退席した。

川崎氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
地域貢献は難しい。頼られると限りなく頼られてしまう。
一線を画しているところがある中で、このような取り組みはすごいと思う。
森田氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
地域貢献プラス、たとえば地域の小学生が芸術鑑賞で学校の公演に来るなど、機会があれば良いと思う。
石原氏の評価は「4」。下記はそれに対する意見。
地域をロケ地にすることで、お互い win win な関係になれていると思う。
協賛活動も良いと思う。

□次回開催について
以上で討議は終了。
ここで司会より次回のスケジュールについて説明があった。
内容は下記のとおり。
次回第 3 回目は 3 月 27 日（水）14:00 開催予定。
第 3 回では、次年度本委員会で評価対象となる 2023 年度の取組についてのご説明と、今回の評価結果も踏まえ、現在すでに決まっている 2024 年度の取組についてご説明させていただく旨伝えた。

最後に司会からお礼を述べ、この会は 16:20 に終了した。

以上

2023 年度 第 3 回学校関係者評価委員会　議事録

日時：2024 年　3 月　27 日（水）14:00～
場所：日本芸術専門学校 第 3 教室

出席者：
学校関係者評価委員 5 名（敬称略）

企業等評価委員	小高 三良	プロダクション・タンク所属・ 声優基礎・洋画アフレコ授業講師
企業等評価委員	森田 槙	株式会社ペリドット・カンパニー所属・ ミュージカル研究講師
地域住民	川崎 景介	マミフラワーデザインスクール校長
卒業生	石原 綾乃	**日本芸術専門学校卒業生**
専門家等評価委員	**梶間 栄一**	**公認会計士**

自己評価委員 5 名

理事長 日本芸術専門学校 校長	**武田 光弘**
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ部 部長 兼 企画営業部 部長	**西垣 俊紘**
法人本部 事務局部長	**広井 里佳（議事録）**
総務課長	鈴木 秀範
ｱﾄﾞﾐﾆｽﾄﾚｰｼｮﾝ部	**後藤 千恵**

欠席者：1 名

高校等評価委員	**岸本 南**	**東京表現高等学院 MIICA 副校長**

中迫氏が司会進行。
東京表現高等学院 MIICA 教員の川野氏が、2024 年度から日本芸術専門学校に異動となるため、今回の委員会に参加し、挨拶を行った。

□本日の流れ及び趣旨説明

次に司会から、配布資料の案内と本日の流れを説明した。
配布資料は下記のとおり。

① 本日の議題
② 2022 年度 学校関係者評価 報告書
③ 2023 年度の取組・2024 年度の取組計画

□学校関係者評価委員会の振り返り

司会より、学校関係者委員会報告書が完成した旨と、この報告書は 5 月に学校ホームページにて公開するため、もし修正が必要な箇所があれば、この会の後に個別にお伺いする旨、説明した。
参照資料は【②2022 年度 学校関係者評価 報告書】。

次に委員の皆様に下記質問をした。

・開催時期について

今回は 11 月 1 日、2 月 26 日、3 月 27 日と 3 回行ったが、時期や回数についてはいかがだったか。
遅かった、はやかった、ちょうど良かった、多かったなど、ご意見を一人ずつ伺いたい旨、司会から説明を行った。

梶間氏
都内の専門学校を見てみた。修学支援制度と職業実践専門課程の認定のためにこの委員会を開催しているということだが、他学校では、自己点検評価が 50 ページ、学校関係者評価が数ページだった。
今後自己点検評価をもう少し詳しく書いてもらうと良いと思う。

日数については、年 3 回の学校もあれば、年 1 回の学校もある。
どのくらいの回数が良いのかは、皆さんの意見を聞きたい。

小高氏
時期、回数は問題ない。
準備が大変だと思うので、負担がなければ多少動いてもかまわないが、準備が重要。

川崎氏
学校にお任せする。
学校のペースで行った方が良いと思う。
回数に関して、3 回は入念だと思う。3 回で良いと思う。

森田氏
初めてだったので、今回はトライアルという感じ。
学校関係者評価のページ数が多いのは驚いたが、これくらいの評価項目をみると、全体が見えるので、特に困った点はなかった。

回数については、集まる場があると意見が変わってくるため、時間があればもう少し皆さんの意見を聞きながら評価をしたかった。時間が許すなら 4 回、5 回と行っても良いと思った。

梶間氏
開催時期的には遅い気もする、対象年度が 2022 年度なので、それでなくても遅い。
今後他校の実務もみてもらって、もう少し開催の時期を前倒しにしても良いのでは、と思う。

石原氏
初めての参加であるが、回数とか時期的なものは問題ない。
学校がどのくらいの密度を求めているかに応じて、開催回数は増やさず開催時間を 2 時間ではなく 3 時間にするなどしても良いのかな、と思った。

・評価作業量について
今回、委員会とは別に学校が自己評価をした項目に対して、一つずつ評価及びコメントをいただく作業をしていただいたが、作業量についてはいかがだったか。
多い、とても多い、普通、少ない、等でお答えいただき、理由もあれば教えていただきたい旨、司会から説明を行った。

小高氏
初めて学校関係者評価シートを見たとき、驚いたが、このくらい丁寧に点検するのが良いと思う。

梶間氏
評価項目についてはガイドラインにあるので、仕方ない。
繰り返しになるが、自己点検評価をもう少しがんばってほしい。
内容の肉づけを行ってほしい。

川崎氏
細かくやっていると思うが、気にするとキリがないと思う。

ここで、川崎氏より、当日討議項目はなにを基準に選んだか、と質問があった。
これに対して理事長が、職員の中で気になっていること、問題だと思っていることを選んだと回答した。

議論をしながら決めるのは、大事なことなので、その項目を増やすのも良いと思う。
そうすると、いろいろと質疑応答ができるし、学校側の悩みも聞けて良いキャッチボールができる。もう少し当日討議項目が増えても良いと思う。当日討議項目は良い試みだと思う。

森田氏
作業量について全く負担はない、むしろ楽しませてもらった。
1 人で評価していると、学校が悩んでいることとちがう答えになってしまうので、
自己点検評価の中に、なにか注釈などがあると良い。

石原氏
作業量など問題はない。同じような項目がいくつかあったので、そこをまとめて、1 個に集中できる項目があっても良いと思った。

小高氏から追加で、下記コメントをいただいた。
前回の評価に対する学校の返答があったのが良いと思った。
学校の実態を少し変革できている、学校関係者評価の存在意義を感じられてよかった。

□2023 年度の取組・2024 年度の取組計画について
続いて司会より、2023 年度の取組は、この 3 月までの取組内容となるが、次年度皆さまにご評価いただく対象の年度となりますので、ここで一度ご報告したい旨と、この 2023 年度からは、2025 年度の変革に向けた取組計画となっており、まずは本校校長 武田よりご説明させていただきたい旨、説明を行った。

以下武田氏の挨拶。
本校では 2025 年度に職業実践専門課程の認定校になるのが大きい目標。
芸能界に直結する職業実践の学校として、なにが必要か皆様にご意見をうかがって、それを学生に伝えていかなければならない。
ブレがないようにしないといけない。
産学連携、インターンシップの充実、より深く学びたい学生のための 3 年制、卒業したあと、ニューヨークアクターズスクールのようなディプロマクラスの充実、ミュージカルだけでなく他のコースの公演にもミュージカルプロジェクトのようなプロジェクトを設けたいと考え、年度末の一大プロジェクト（プレシャスプロジェクト）を行うことにする。
質の高い作品を発表していきたいと考えており、2023.2024 年度は本校の大変革の年となるので、皆様のご意見を参考にしながら、学生の役に立つ教育を行うべく、ご指導をお願いしたい。

◆2023 年度の取組
　参照資料は【③2023 年度の取組・2024 年度の取組計画】。

2023 年度の取組については
１を西垣氏、２～６を後藤氏、７を鈴木氏が説明し、最後に学園祭ダイジェストをモニターで流した。

◆2024 年度の取組
2024 年度の取組については、１を中迫氏、２～７を後藤氏が説明した。

最後に司会より、本日の本校の説明や学校関係者評価委員会の開催に対し、ご質問やご意見・感想を順番に伺いたい旨、説明があった。
小高氏
この学校はいろいろなジャンルを学べる、舞台公演も多くて良いと思う反面、
土台となる基礎的な実力がまだ足りていないと思うこともあった。
2024 年度の取組を聞いて、今後学生が落ち着いて学ぶことができれば良いと思う。
公演のための公演ではなく、活き活きとした公演になると思う。

梶間氏
取組計画は素晴らしい。
ただ学校の３つに切り口となる、入口、教育面、出口の支援（進路）の内、教育については熱く語っていると思うが、2024 年度の取組計画にも入口（定員充足率、経営、予算など）に関する内容も加えた方が良い。
学校の特徴付をしっかりして、入口と出口のところをより明確に記載することで、良い学校だと思えるようになる。

川崎氏
少子化は、私たちフラワースクールにとっても切実な問題。
少子化ということで教育機関はちぢこまりモードになるが、一方で人口が増えすぎても制御できない。
昔女性は結婚して出産すると退職しなければいけなかったが、産休、育休制度は企業としては大変だが、制度を整えると一生懸命仕事をしてくれる。少子化は近い将来落ち着いてくるとおもっているが、減ったときにどうしのぐか、減った分だけ教育を充実させる必要がある。
イベントがないと、少しふぬけになるので、プレシャスオーディションとプレシャスプロジェクト公演は大事。多すぎてもだめだが、年度が終わるときに大きい公演があるのは、とても良いと思う。
感性が大事という点では、フラワースクールでもこの学校でも同じ。
芸術鑑賞授業の拡充はとても良いと思う。
学生が観たいものを観てもらう、劇を観ても良い、感動することをしてきなさい、と促すことで感性が養われるとも思う。

森田氏
2024 年度の取組をみたときに、今までぐちゃぐちゃしていたものがすっきりしたように感じた。
ブラッシュアップ、単なる変更ではなくベターにするための変革だと思う。
学生の目標を 1 個設定することで、集中できて、学生にとっても自分が 1 年目標をどう立てれれば良いか、教えてくれているような取組計画になっているので、良いと思う。
この 1 年の学生の変化、どうなるのかを見てみたい。

石原氏
2024 年度、ミュージカルコースの演技の拡充、1 年生の内から台詞強化、滑舌などを含めて行えるのは良いと思う。
芸術鑑賞の拡充については、自分が選ぶと絶対観ないものを観る事ができるので良いと思うのと、心では思っていても、それが演技にでてこないということがあるので、アウトプットの場があるのがとても良いと思う。

□2022 年度 学校関係者評価実施スケジュールについて

次に司会より下記の説明を行った。

・今回皆さまにご尽力いただいた学校関係者評価につきましては、報告書と 3 回開催分の議事録を 5 月に日本芸術専門学校のホームページにて公開予定。

・頂戴したご意見を次年度以降の学校の運営やカリキュラムの見直し、取組に更新していく所存。

・2024 年度の学校関係者評価委員会については、10 月と 12 月頃、2025 年 2 月頃の、全 3 回開催予定。日にちが近づくころに皆様にスケジュールの確認をさせていただく。

・以前ご記入いただいた、お振込先等ご記入シートのコピーを机に置かせていただいたが、もしこの 3 月で電車やバスの運賃値上げで交通費が変更になる方がいれば、①の枠外に、別途 3 月の往復交通費をご記入いただきたい。また提出がまだの方は、ご提出をお願いしたいのと、振込みについては、近日中にさせていただく予定。

ここで、この 3 月で退職する西垣氏から挨拶を行った。
最後に校長　武田氏から皆様にお礼を述べ、この会は 15：30 に終了した。

以上